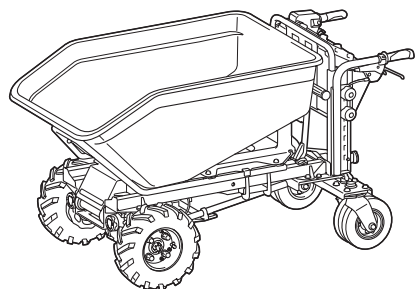


Makita

取扱説明書

充電式運搬車

モデル CU602D



このたびは充電式運搬車をお買い上げ賜わり厚くお礼申し上げます。

ご使用に先立ち、この取扱説明書をよくお読みいただき本製品の性能を十分ご理解の上で、適切な取り扱いと保守をしていただき、いつまでも安全に能率よくお使いくださるようお願いいたします。

なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。



もくじ

はじめに

主要機能	2
安全上のご注意	3
各部名称	19
標準付属品の確認	20
別販売品のご紹介	20

ご使用前の準備

本製品の組み立て	22
バッテリーの充電	27
バッテリー/充電器の取り扱い	28
使用前に知っておいていただきたいこと	29

使い方

バッテリーとキーの取り付け/取りはずし方法	30
本製品の操作	33
・ ハンドルの高さ調整	33
・ バッテリーの切り換え方	34
・ バッテリー残容量表示	35
・ 電源の入れ方	37
・ 前進/後進の切り換え方	38
・ 速度の切り換え方	38
・ スイッチレバーの操作	39
・ ブレーキレバーの操作	39
・ 傾斜スイッチの操作	40
・ 後輪ロックの操作	41
・ ライトの操作	42
・ ブザーボタンの操作	42
・ バイブフレーム(別販売品)の幅調整	43
・ 積載方法	44
・ 運搬方法	45
・ 積載物の放出方法	47
使用後の取り扱い	49
・ 本製品のお手入れ	49
・ 保管方法	50

保守/点検

作業前点検	51
調整	53
タイヤ(別販売品)の交換	54
トラブルシューティング	60
動かせなくなった本製品を緊急で移動させる対処方法	61
故障かな?と思ったら	63

充電式運搬車 保証書

裏表紙

はじめに

主要機能

主要機能		モデル	CU602D
電動機		DC ブラシレスモータ	
バッテリー (別販売品)		リチウムイオンバッテリー 対応バッテリーの詳細は 20 ページの 「別販売品のご紹介」を参照ください。	
電圧		直流 36 V	
最高速度		前進：5.0 km/h、3.5 km/h、1.5 km/h ※ 1	
		後進：1.0 km/h	
速度調整		スイッチレバー (0 km/h ~ 最高速度)	
走行可能距離 ※ 2		3.6 km (BL1860B × 2 個) ※バッテリー 4 個搭載可能 / 切り換えスイッチ付き	
使用可能時間 ※ 2		50 分 (BL1860B × 2 個) ※バッテリー 4 個搭載可能 / 切り換えスイッチ付き	
最小回転半径		1,150 mm (前輪を軸に回転した場合の最外径)	
最大登坂能力		12°	
最大作業能力		平地	300 kg
		傾斜地	180 kg (斜度 3° ~ 12°)
ブレーキ		ハンドブレーキ + サポートブレーキ	
タイヤ		前輪：チューブ式	
		後輪：チューブ式	
本製品寸法 (長さ×幅×高さ)		ダンプバケット装着時： 1,480 mm × 730 mm × 820 - 1,030 mm ※ 3	
		パイプフレーム装着時： 1,450 - 1,600 mm × 730 - 1,080 mm × 820 - 1,030 mm ※ 4	
質量 (バッテリー BL1860B 2 個含む)		ダンプバケット装着時：145 kg	
		パイプフレーム装着時：141 kg	
防じん・防水保護等級		IPX4	

- ※ 1. ダンプバケットを傾斜させた状態の前進および後進速度は 0.8 km/h です。
- ※ 2. 数値は参考値です (作業能力 300 kg、平地、前進速度 5.0 km/h、ライトオフ)。バッテリーの充電状態や作業条件により異なることがあります。
- ※ 3. ダンプバケットを傾斜させた状態の高さは 1,260 mm です。
- ※ 4. パイプフレームを傾斜させた状態の高さは 1,200 mm です。
- ・ 本製品は、道路交通法上の「原動機を用いる軽車両」の型式認定を取得しています。
- ・ 改良のため、主要機能および形状などは変更する場合がありますので、ご了承ください。

本製品（充電器、バッテリーは除く）は、雨の中での使用に耐えうる製品仕様となっていますが、故障しないことを保証するものではありません。以下のことに注意してください。




安全上のご注意

- ・ ご使用前に、「取扱説明書」と「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、正しく使用してください。
- ・ 感電、火災、重傷などの事故を未然に防ぐために、この「安全上のご注意」を必ず守ってください。

禁止事項

- ・ 絶対に荷台に乗ったまま本製品を操作しないでください。
- ・ 荷台に人を乗せて、乗り物として使用しないでください。

注意文の  **警告** ・  **注意** ・  **注** の意味について


ご使用上の注意事項は  **警告** と  **注意** ・  **注** に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

警告

：誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

注意

：誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお  **注意** に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

注

：製品および付属品の取り扱いなどに関する重要なお注意。

電動製品全般のご注意

⚠ 警告

作業環境

1. 作業場は、整理整頓してください。また、十分に明るくし、いつもきれいに保ってください。
 - ・ ちらかった暗い場所や作業台は、事故の原因となります。
2. 可燃性の液体・ガス・粉じんのある所で使用しないでください。
 - ・ 充電式製品から発生する火花が発火や爆発の原因になります。
3. 使用中は子供や第三者を作業場に近づけないでください。
 - ・ 注意力が散漫になり、操作に集中できなくなる可能性があります。
 - ・ 作業者以外、充電式製品や充電器のコードに触れさせないでください。
4. 落雷の恐れがある場合は製品を使用しないでください。
 - ・ 感電ややけどの恐れがあります。
5. 十分な、防じん対策や飛散防止対策をしてください。
 - ・ 特に、人体に有害な成分を含む材料を加工するときは、注意してください。
6. アスベスト（石綿）周辺の環境下（除去作業含む）で使用しないでください。
 - ・ アスベストは、人体に肺がんなどの重大な健康被害を発症させる物質です。

電気に関する安全事項

1. 電源コンセントは充電器の電源プラグに合ったものを使用してください。また、電源プラグの改造をしないでください。アース（接地）付きプラグは確実にアース（接地）をしてください。
 - ・ 改造していない電源プラグおよびそれに対応するコンセントを使用すれば、感電のリスクが低減されます。
2. アース（接地）された金属製のものに身体を接触させた状態で充電式製品に触れないでください。
 - ・ 感電する恐れがあります。
3. 充電器、バッテリーは、雨中や湿気の多い所で、充電したり、保管しないでください。
 - ・ 充電器、バッテリー内部に水が入り、感電や発熱、発火、破裂する恐れがあります。
4. 充電器の電源コードを乱暴に扱わないでください。
 - ・ 電源コードを持って充電器を運んだり、引っ張ったりしないでください。また、電源プラグを抜くために電源コードを利用しないでください。
 - ・ 電源コードを熱、油、角のある所、動くものに近づけないでください。電源コードが損傷したり、身体に絡まって感電する恐れがあります。
5. 使用環境に適した延長コードを使用してください。
6. 充電式製品、充電器およびバッテリーは、雨の中に放置しないでください。
 - ・ 感電や発熱、発火、破裂の恐れがあります。
7. 雨の中で、バッテリーを製品からはずさないでください。
 - ・ 感電や発熱、発火、破裂の恐れがあります。

⚠ 警告

8. 濡れた手でバッテリーの端子や充電器の電源プラグ、電源コンセントに触れないでください。
 - ・ 感電の恐れがあります。
9. USB 端子付きの充電式製品や充電器は、USB 端子間を短絡（ショート）させないでください。
 - ・ 釘、針金が USB 端子内に入ると、短絡（ショート）して発煙、発火の恐れがあります。

作業者に関する安全事項

1. 油断しないで十分注意して作業を行ってください。
 - ・ 充電式製品を使用する場合は、取扱方法、作業の仕方、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
 - ・ 疲れていたり、アルコールまたは医薬品を飲んでいる方や妊娠している方は、充電式製品を使用しないでください。
 - ・ 屋外での作業の場合は、夜間の使用や悪天候などで視界の悪いときは充電式製品を使用しないでください。
 - ・ 一瞬の不注意が深刻な傷害を招きます。
2. きちんとした服装で作業してください。
 - ・ だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので着用しないでください。
 - ・ 髪、衣服、手袋は回転部分に近づけないでください。
 - ・ 屋外での作業の場合には、ゴム手袋とすべり止めの付いた履物の使用をおすすめします。
 - ・ 長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆ってください。

充電式製品の使用および手入れ

1. 充電式製品は能力に合った作業に使用してください。
 - ・ 安全に能率よく作業するために、充電式製品の能力に合った負荷で作業してください。
2. 電源ボタンやスイッチに異常がないか点検してください。
 - ・ 電源ボタンやスイッチで始動および停止操作のできない充電式製品は危険です。使用せず修理をお申し付けください。
3. 充電式製品の誤始動を防ぐために、次の作業前は電源ボタンやスイッチを切り、バッテリーとキーを充電式製品から抜いてください。
 - ・ 調整、付属品の交換
 - ・ 保管、または修理
 - ・ 充電式製品から離れるときや、受け渡し
 - ・ その他、危険が予想されるとき
4. 使用しない充電式製品、充電器およびバッテリーは、子供の手の届かない乾燥した鍵のかかる場所に保管してください。
 - ・ 充電式製品や充電器からバッテリーを抜いて保管してください。
 - ・ 充電器は電源コンセントから電源プラグを抜いて保管してください。
 - ・ バッテリーはバッテリーカバーをつけて保管してください（バッテリーカバー付きの場合）。

⚠ 警告

5. 可動部分の位置調整および締め付け状態、部品の破損、取り付け状態、その他運転に影響をおよぼすすべての部位に異常がないか確認してください。
 - ・ 保守点検が不十分であることが事故の原因になります。
 - ・ 握り部は、常に乾かしてきれいな状態に保ち、油やグリスなどが付かないようにしてください。
 - ・ 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
 - ・ 充電器の電源コードは定期的に点検し、損傷している場合は、お買い上げの販売店、または当社営業所に修理をお申し付けください。
 - ・ 充電器に使用する延長コードは、定期的に点検し、損傷している場合は交換してください。
6. 取扱説明書で指定した先端工具、付属品、アタッチメントなどを使用してください。
 - ・ 取扱説明書で指定のサイズ、形状、付属品などは、充電式製品の性能や安全を引出すよう、最適に設計されています。
7. 充電式製品、付属品やアタッチメントは、作業条件や実施する作業に合わせてご使用ください。
 - ・ 指定された用途以外に使用すると、事故の原因になります。
8. 極端な高温や低温の環境下では十分な性能を得られません。
9. 清掃の際は、バッテリー部、モータ部、電気接続部へ水を侵入させないようにしてください。
10. 高圧水での洗浄はしないでください。
 - ・ 破損、故障の原因になります。

バッテリーに関する安全事項

1. バッテリーを差し込む前に、電源ボタンやスイッチを切り、キーが取りはずされていることを確認してください。
 - ・ 事故の原因になります。
2. バッテリーは専用充電器以外では充電しないでください。
 - ・ ほかのバッテリー用の充電器を流用すると、火災、発熱、破裂、液漏れの恐れがあります。
3. マキタが指定した専用バッテリー以外使わないでください。また、改造したバッテリー（分解してセルなどの内蔵部品を交換したバッテリーを含む）を使用しないでください。
 - ・ 充電式製品の性能や安全性なども損なう恐れがあり、火災やけが、故障、破裂などの原因になります。
4. バッテリーの端子部を金属などで接触させないでください。
 - ・ バッテリーを金属と一緒に工具箱や釘袋などに保管しないでください。短絡（ショート）して発熱、発火、破裂の恐れがあります。
 - ・ 充電式製品または充電器からはずした後は、バッテリーにバッテリーカバーを必ず取り付けてください（バッテリーカバー付きの場合）。

⚠ 警告

5. 高温などの過酷な条件下ではバッテリーから液漏れすることがあります。漏れ出た液体に不用意に触れないでください。
 - ・ 万が一、バッテリーの液が目に入ったら、直ちにきれいな水で十分洗い医師の治療を受けてください。
 - ・ バッテリーの液は炎症ややけどの原因になることがあります。
6. バッテリーはマキタ製品以外に取り付けて使用しないでください。
 - ・ 火災、発熱、破裂、液漏れの恐れがあります。
7. バッテリーは、火への投入、加熱をしないでください。
 - ・ 発火、破裂の恐れがあります。
8. バッテリーに釘を刺したり、衝撃を与えたり、分解・改造をしないでください。
 - ・ 発熱、発火、破裂の恐れがあります。
9. バッテリーを火のそばや炎天下など高温の場所で充電・使用・保管しないでください。
 - ・ バッテリーを周囲温度が 50 °C 以上に上がる可能性のある場所（金属の箱や夏の中車内など）に保管しないでください。バッテリー劣化の原因になり、発煙、発火の恐れがあります。
10. バッテリーの内部に塩水のような導電体を侵入させないでください。
 - ・ バッテリー内部に塩水のような導電体が侵入すると、感電や発熱、発火、破裂の恐れがあります。
11. 使用時間が極端に短くなったバッテリーは使用しないでください。
12. 落としたり、何らかの損傷を受けたバッテリーは使用しないでください。
 - ・ 損傷、または使用できなくなったバッテリーは回収しております。お買い上げの販売店、または当社営業所へご持参ください。
13. 使用済みのバッテリーは一般家庭ゴミとして棄てないでください。
 - ・ 棄てられたバッテリーがゴミ収集車内などで破壊されて短絡（ショート）し、発火・発煙の原因になる恐れがあります。
14. バッテリーは、電力量が 100 Wh を超える場合、危険物に分類されます。
 - ・ 輸送の際は、輸送会社にお問い合わせの上、指示に従ってください。
 - ・ 電力量は、バッテリー裏側の注意ラベルに記載されています。
15. 使用中、使用後にバッテリーが熱くなることがあります。やけど、低温やけどの原因になるため注意してください。
16. バッテリーに切りくず、ほこり、土などがたまらないようにしてください。
 - ・ 異常発熱によりやけどをしたり、発火、破裂または、作動不良によりけがに至る恐れがあります。

⚠ 警告

整備

1. 充電式製品は、専門家による純正部品だけを用いた修理により安全性を維持することができます。
 - 充電式製品、充電器、バッテリーを分解、修理、改造はしないでください。発火したり、異常動作して、けがをする恐れがあります。
 - 充電式製品が熱くなったり、異常に気づいたりしたときは点検・修理に出してください。
 - 充電式製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
 - 修理は、必ずお買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。
 - 修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの恐れがあります。
 - アスベスト(石綿)周辺の環境下(除去作業含む)で使用した本製品の保守・点検・修理は受付できません。

その他の安全事項

1. 保守や点検は雨を避けられる場所で行ってください。
2. 損傷した部品がないか点検してください。
 - 使用前に、部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。異常がある場合は、使用する前に修理を行ってください。
 - 破損した部品の交換や修理は、取扱説明書に従ってください。取扱説明書に記載されていない場合は、お買い上げの販売店、または当社営業所に修理をお申し付けください。電源ボタンやスイッチが故障した場合は、お買い上げの販売店、または当社営業所に修理をお申し付けください。
 - 異常・故障時には、直ちに使用を中止してください。そのまま使用すると発煙・発火、感電、けがに至る恐れがあります。
 - < 異常・故障例 >
 - 充電式製品やバッテリーが異常に熱い。
 - 充電式製品やバッテリーに深いキズや変形がある。
 - 焦げくさい臭いがする。
 - ビリビリと電気を感じる。
 - 電源ボタンやスイッチを入れても動かないなど不具合を感じた場合は、すぐにバッテリーを抜いてお買い上げの販売店、または当社営業所に点検、修理をお申し付けください。
3. 正しい付属品やアタッチメントを使用してください。
 - この取扱説明書および当社カタログに記載されている付属品やアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの原因となる恐れがあるので使用しないでください。
4. ラッカー、ペイント、ベンジン、シンナー、ガソリン、ガス、接着剤などのある場所では充電しないでください。
 - 爆発や火災の恐れがあります。

⚠ 警告

5. 火災の恐れがあります。次のようなことをしないでください。
 - ・ダンボールなどの紙類、座布団などの布類、畳、カーペット、ビニールなどの上では充電しないでください。
 - ・風窓のある充電器は、充電中に風窓をふさがないでください。また風窓に金属類、燃えやすいものを挿し込まないでください。
 - ・綿ぼこりなど、ほこりの多い場所で充電しないでください。
6. 充電器のバッテリー装着部には充電用端子があります。金属片・水などの異物を近づけないでください。
 - ・そのまま充電を続けると発煙、発火、破裂の恐れがあります。
7. 充電器は充電以外の用途には使用しないでください。
8. 充電中、発熱などの異常に気が付いたときは、直ちに電源プラグを抜いて充電を中止してください。
 - ・そのまま充電を続けると発煙、発火、破裂の恐れがあります。
9. 正しく充電してください。
 - ・充電器は定格表示してある電源で使用してください。
 - ・昇圧器などのトランス類や直流電源では使用しないでください。異常に発熱し、火災の恐れがあります。
 - ・ラベルに「発電機」の表示がある充電器はエンジン発電機（当社インバータ制御付エンジン発電機は除く）では使用しないでください。異常に発熱し、火災の恐れがあります。
 - ・周囲温度が 10 °C 未満、または周囲温度が 40 °C 以上ではバッテリーを充電しないでください。破裂や火災の恐れがあります。
 - ・バッテリーは、換気の良い場所で充電してください。バッテリーや充電器を充電中、布などで覆わないでください。破裂や火災の恐れがあります。
 - ・充電器の電源コードが踏まれたり、引っかけられたり、無理な力を受けて損傷することがないように場所で充電してください。発煙、発火、感電の恐れがあります。
 - ・充電器を使用しないときは、電源プラグを抜いてください。
10. 充電器の電源プラグに濡れた手で触れないでください。
 - ・感電の恐れがあります。
11. 充電式製品を高圧電線の近くで使用しないでください（高圧電線対応製品は除く）。
 - ・誤動作や故障する恐れがあります。
12. 充電器で使用する延長コードの太さ（導体公称断面積）と長さの目安
 - ・充電器の使用時に延長コードが必要な場合、充電器を最高の効率で支障なくご使用していただくために十分な太さの延長コードをできるだけ短くお使いください。

太さ（導体公称断面積）	長さの目安
2.0 mm ²	30 m

この取扱説明書は、大切に保管してください。

- ・お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見ることができる所に必ず保管してください。
- ・ほかの人に貸し出す場合は、一緒に取扱説明書もお渡しください。

充電式運搬車安全上のご注意

先に充電式製品として共通の注意事項を述べましたが、充電式運搬車として、さらに次の注意事項を守ってください。

⚠ 警告

運転の前に

- 本製品は道路交通法では「原動機を用いる軽車両」として扱われます。道路を走行する場合は、交通法規やマナーを守り、周囲に十分注意して安全な走行を心がけてください。
- 本製品の走行および取り扱いに慣れるまでは、安全な広い場所で、発進、停止、旋回、後進、傾斜などを十分に練習してください。
- 本製品を使用する前に、必ず作業前点検を実施してください。
- 油圧ユニットの取付ボルトやリリース弁の調整ねじなどは、むやみにゆるめたり、改造したりしないでください。故障の原因になります。
- [事業者の方へ]

本製品は労働安全衛生法に規定される構内運搬車に該当します。

構内で使用する場合は、労働安全衛生規則 151 条の 59 に基づく安全装置（警告音、尾灯）が必要になるなど、労働安全衛生法に準拠した対応が必要です。

走行時の注意

- 車道と歩道または路側帯の区別のある所では、車道の左端に寄って走行してください。
道路交通法上、歩道または路側帯ではなく車道を走行する必要があります。
- 斜め横断はしないでください。横断に時間がかかるため、他の通行のさまたげとなることがあります。
- 交差点では必ず一時停止して、左右の安全を確認してから、ゆっくり発進してください。
- 走行中は携帯電話やスマートフォンなどを使用しないでください。イヤフォンやヘッドフォンなどを装着して、周囲の音が聞き取りづらい状況で走行しないでください。
- 夜間に走行する場合は、ライトを点灯してください。走行前に、バッテリーの残容量が十分であることを確認してください。バッテリーの残容量がなくなるとライトが消灯します。ライトが消灯した状態で夜間の走行は避けてください。
- 夜間走行は視界が悪くなり周囲の状況が見にくく、歩行者や障害物などの発見が遅れます。危険が多くなることを自覚し、ライトを点灯し、十分な安全を確認して走行してください。
- 夜間走行では危険を感じたら必ずブレーキをかけて減速し、安全を確認して走行してください。
- 夕暮れ時は周囲が見えにくくなるので、早めにライトを点灯し、注意して走行してください。
- 夜間走行時は、操作者の存在を周囲に認識してもらうために、高視認性安全服（反射服）、または夜光反射材の着用を推奨します。

⚠ 警告

- 走行前にリフレクタが破損したり、汚れていないか確認してください。汚れている場合は、清掃してください。破損している場合は、新品に交換してください。交換については、お買い上げの販売店、または当社営業所にお問い合わせください。
- 次のような場所では、接触、衝突、転倒などの恐れがあります。走行を避けるか、補助者に同行してもらうなどして、十分な安全確認や脱輪予防をしてください。
 - 幅の広い道路の横断
 - 防止柵のない側溝や路肩付近
- 次のような場所や状況下での走行は避けてください。転倒や故障の原因となります。
 - 急な坂道
 - 大きな溝や段差
 - むかみ、でこぼこ道、雪道、凍結路面、砂地、砂利道などの悪路
 - 下り坂での後進
 - 傾斜面の横断
 - 大雨、濃霧、強風、降雪などの悪天候
- 次のような場所や状況下では、できるだけ走行を避けてください。やむを得ず走行する場合は、十分な安全確認や脱輪予防をしてください。
 - 混雑している場所
 - 交通量の多い道路
 - 狭い道
- 高圧線やテレビ塔など強い電磁波が出ている場所での走行は避けてください。

踏切を横断する際の注意

- 踏切内で立ち往生してしまう恐れがあるため、踏切の横断はできるだけ避けてください。
- 踏切を横断する前に、バッテリーの残容量が十分に確認してください。
- 横断の途中で遮断機が下り始めた場合に渡りきれない可能性があるため、横断に時間がかかる踏切は迂回してください。
- 警報機が鳴り始めているときや、遮断機が下り始めているときには、踏切内に入らないでください。
- できるだけ補助者に同行してもらってください。
- 踏切の手前で一時停止して、左右の安全を確認してから横断してください。
- 線路の溝にはまらないように、線路に対して直角に横断して、タイヤを取られないように注意してください。
- 脱輪する恐れがあるため、踏切の端は走行しないでください。
- 踏切内で動かなくなった場合は、補助者や付近の人の協力を得て、ブレーキをロックしてニュートラルレバーを解除してから、手押しで移動してください。
- 万が一、踏切内からの脱出が困難な場合は、踏切の非常ボタンを押してください。

本製品の操作

- 操作するときは、本製品の後方に立って、ハンドルを両手でしっかり握って操作してください。
- 操作する前に、本製品の周りに人がいないことを確認してください。

⚠ 警告

作業中

- ・ 後進で使用するときは、後方の視界や、足元などに十分注意してください。滑ったり、つまずいたりする恐れがあります。
- ・ 荷台に人を乗せないでください。
- ・ 荒れた地面を走行したり、高低差を超えたりする場合は、減速して十分に注意して走行してください。
- ・ 視界が悪いときは、障害物などにぶつかって事故の恐れがありますので、本製品を使用しないでください。
- ・ 軟弱な路面で使用しないでください。路肩が崩れて、転倒や転落の恐れがあります。
- ・ わだちや凹凸のある路面を走行する場合は、減速して十分に注意して走行してください。
- ・ 転倒を避けるために、平地または 12° 以下の傾斜地で使用してください。
- ・ 使用中に異常を見つけたら、平坦な場所で停止してください。点検を行う前に、ブレーキをロックして、電源を切ってください。
- ・ 本製品を操作する前に、荷台がロックされていることを確認してください。ロックが不完全な場合、降坂時に荷台が傾いて荷物が落下して、事故の恐れがあります。
- ・ 壁の近くで操作するときは、ハンドルと壁の間に手を挟まないように注意してください。
- ・ 悪天候、特に落雷の恐れがある場合は、本製品を使用しないでください。
- ・ 滑りやすく、ゆるく、不安定な地形での操作には十分注意してください。濡れた芝生の上、雪や氷などの濡れた滑りやすい路面、砂や砂利の表面などのゆるく不安定な地形では、牽引力を失い、操作、ブレーキ、安定性に悪影響を与える可能性があります。
- ・ 使用中、使用直後は製品の金属部に触れないでください。熱くなっているためやけどの恐れがあります。
- ・ 低温の環境下で使用する場合、手袋を使用してください。製品の金属部分に触れた手が張り付く恐れがあります。
- ・ 作業中はコードが荷物や障害物に引っかからないように注意してください。
- ・ 本製品を旋回させるときは、速度を下げてゆっくりと慎重に操作してください。本製品を急に旋回させると、バランスを崩して転倒する恐れがあります。
- ・ 柔らかい地面、またはでこぼこの地面を走行するときは、速度を下げてください。
- ・ 本製品を使用して作業している途中で本製品から離れる場合は、必ず荷台を一番下まで下げ、ブレーキをロックして電源を切り、キーをはずしてください。
- ・ 荷台の下に手や体の一部を入れないでください。けがややけどの恐れがあります。

傾斜地での操作

- ・ 傾斜地では横断や斜め走行などをしないでください。転倒の恐れがあります。
- ・ 下り坂の手前で一旦停止して、下り坂での走行はブレーキで減速させ、操作には十分注意してください。
- ・ 下り坂での走行時にスピードが出すぎると、本製品は警告音でお知らせします。その際は、ブレーキで減速してください。
- ・ 発進および停止には十分注意してください。

⚠ 警告

- ・ 傾斜地では荷物の安定性が下がりますので、ロープなどで荷物をしっかりと固定してください。
- ・ 路面の状態によって本製品の安定性が下がりますので、積載量は最低限に抑えてください。
- ・ 傾斜地では前方の視界が悪くなりますので、積載する荷物の高さは最低限に抑えてください。
- ・ 傾斜地で本製品を停車しないでください。停車するときは、平坦な場所でブレーキをロックして、電源を切ってください。
- ・ 傾斜地で方向転換や変速はしないでください。転倒や転落の恐れがあります。
- ・ 上り坂ではスイッチレバーを放さないでください。本製品が後進する恐れがあります。
- ・ 坂道での走行は、事前にバッテリーの残容量が十分であることを確認してください。バッテリーの残容量が少ない場合は、走行する前に充電されたバッテリーに切り換えるか、バッテリーを充電してください。
- ・ 進行方向に人や障害物がある場合はあらかじめ避けて走行してください。
- ・ 坂道で本製品を発進する際、本製品が数センチ程度後退するため、発進時に後輪の後ろに足をおかないでください。

荷物の積載

- ・ 絶対に過積載はしないでください。積載方法および積載量を守って使用してください。
- ・ 積荷が多くなるほど本製品を操作しづらくなるため、積載量は操作に影響がない範囲にとどめてください。
- ・ 荷台に積載した荷物は、荷崩れしないようにロープなどでしっかりと固定してください。
- ・ 荷台からはみ出して荷物を積載しないでください。荷物が落下したり、荷物が接触して、運転に支障をきたしたり、事故の恐れがあります。
- ・ 荷台に荷物を高く積載しないでください。前方の視界をさまたげるため、運転に支障をきたしたり、事故の恐れがあります。また、重心が高くなり、転倒の恐れがあります。
- ・ 荷物は荷台に均等に積載してください。かたよって荷物を積載すると、不安定になるため、運転に支障をきたしたり、事故の恐れがあります。また、転倒の恐れがあります。
- ・ 液体を積載している際は、こぼれないように十分注意してください。滑って事故やけがの原因となります。
- ・ 重心が低くなるように、重い荷物を下に積んでください。
- ・ 荷物の積み降ろしは平地で行ってください。
- ・ 木橋などを渡るときは、製品重量、積載量、および運転者の体重の総和が木橋などの制限重量を超えないことを確認し、一定速度で慎重に通行してください。
- ・ 転倒、落下により危険が生じるもの（ガソリン、薬品、高圧ガスなど）を運搬しないでください。転倒、落下した場合、事故につながる恐れがあります。
- ・ 荷物を積載した状態で本製品を放置しないでください。
- ・ 荷台で直接荷物をすくわないでください。荷台の破損や転倒などによりけがをする恐れがあります。

⚠ 警告

本製品のトラックなどへの積み込みおよび積み降ろし

- 本製品をトラックなどへの積み込みおよび積み下ろしを行う際は、荷台を一番下まで下げた状態で行ってください。
- ラダーは、荷台の高さの4倍以上の長さで、荷台に適した固定具付きで、滑り止めが付いていて、十分な幅があり、本製品と操作者の重量に十分耐えうるものを使用してください。ラダーに付属の取扱説明書をよくお読みになって使用してください。
- 作業前に本製品から荷物をすべて降ろして、タイヤの泥などを落としてください。ラダーは平たんで安定した場所に設置してください。
- 作業前に周囲に人がいないことを確認して、脱輪しないように注意して、低速で積み込みおよび積み降ろしを行ってください。トラックの天井など頭上に注意して作業してください。後進で積み込みまたは積み降ろしする際は十分に注意してください。
- 本製品を輸送する際は、本製品のブレーキをロックして電源を切り、バッテリーおよびキーを取りはずして、本製品を確実に固定してください。
- 本製品を運搬するためにウインチなどを使用するときは、本製品に確実に固定してください。

点検および整備

- 点検またはメンテナンスを行うときは、本製品を平坦な場所で停止させて、ブレーキレバーをロックして、バッテリーおよびキーを取りはずしてください。

注

- 電源が離れていて、延長コードが必要なときは、充電器を最高の能率で支障なくご使用いただくために、十分な太さのコードをできるだけ短くお使いください。

使用できる延長コードの太さ（公称断面積）と長さの目安

コードの太さ（導体公称断面積）	コードの長さの目安
2.0 mm ²	30 m

IP 表示について（防じん・防水性能）

IP 表示は IEC 国際規格により規定される電気機器への粉じんや水の侵入に対する保護等級を表します。

保護等級の分類と内容はつぎの通りです。

IP X 4 有害な影響を伴う水の侵入に対する保護等級（防水）

保護等級	内容
0～3	省略
4	あらゆる方向からの水の飛沫に対して保護されている。
5	あらゆる方向からの噴流水（12.5 ℓ /min）に対して保護されている。
6	あらゆる方向からの暴噴水（100 ℓ /min）に対して保護されている。
7	水に浸しても影響がないように保護されている。
8	潜水状態での使用に対して保護されている。

外来固形物の侵入に対する保護等級（防じん）

保護等級	内容
0～3	省略
4	直径 1 mm 以上の大きさの外来固形物に対して保護されている。 針金での危険箇所への接近に保護されている。
5	防じん試験用粉じん（直径 75 μm）が侵入しても、動作および安全性を損なわないように保護されている（防じん形）。
6	耐じん試験用粉じん（直径 75 μm）が侵入しないように保護されている（耐じん形）。
X	規定しない。

注

- IP 表示をしている製品は粉じんや水による影響を受けにくいように設計されていますが、故障しないことを保証するものではありません。
- 工具体体にバッテリーを装着した状態で、IEC 国際規格に規定された保護等級に適合しております。

注意ラベル

安全に使用していただくために、本製品には注意ラベルが貼ってあります。
 注意ラベルをすべて確認してからご使用ください。
 注意ラベルははっきりと見えるように、常にきれいにしておいてください。

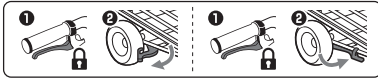
貼り付け位置：①



貼り付け位置：②



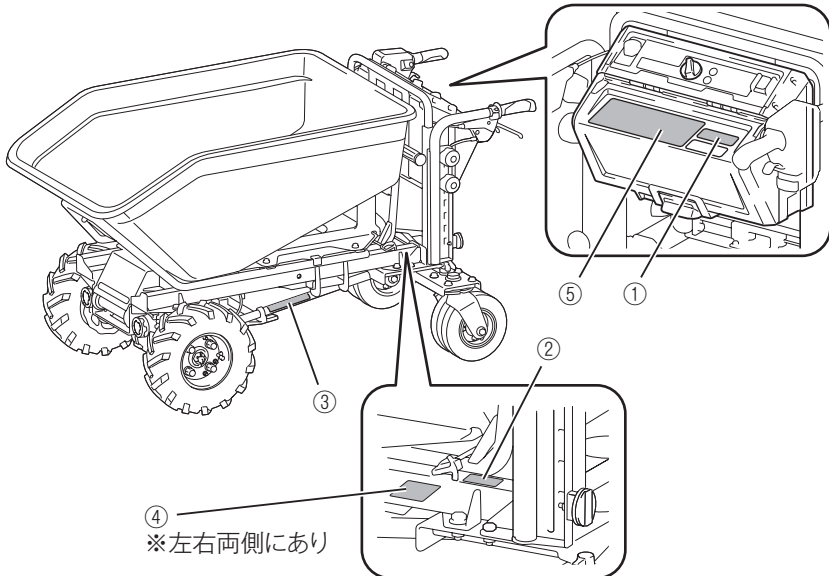
貼り付け位置：③



貼り付け位置：④



貼り付け位置：⑤



シンボルマークについて



空気圧 前輪：280 kPa
後輪：525 kPa



ロックレバーを時計回りに回すとダンプユニットがロックされます。



ロックレバーを反時計回りに回すとダンプユニットのロックが解除されます。



ニュートラルレバーを引く前にブレーキレバーをロックしてください。



ニュートラルレバーを戻す前にブレーキレバーをロックしてください。



荷物の積み降ろしのときは、ブレーキレバーおよびダンプユニットをロックしてください。



傾斜地では荷物の積み降ろしをしないでください。



傾斜地で方向を変えないでください。



最大積載量 平地：300 kg
傾斜地：180 kg



傾斜地でダンプユニットを持ち上げないでください。



パイプフレームまたはバケットの積荷は均一になるように積んでください。
荷台に対して偏ったり、前寄りに荷物を積まないでください。



可動部に手や体の一部を入れないでください。



積荷を縛った状態でダンプユニットを持ち上げないでください。



本製品を高圧洗浄機で洗浄しないでください。



人の近くで本製品を操作しないでください。



荷物を積んだ状態で、段差の近くを走行しないでください。



ダンプユニットを持ち上げる場合、放出位置に人などがいる時は本製品を動かさないでください。

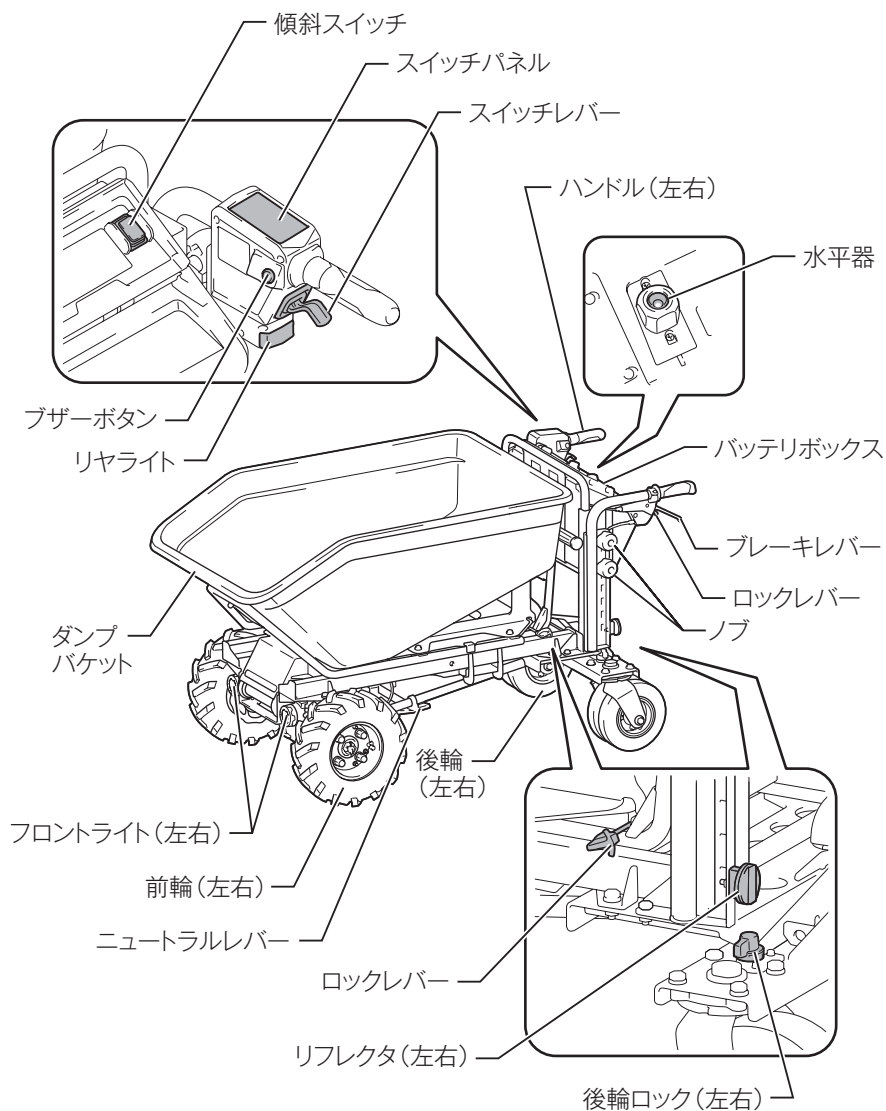


人を乗せて運ばないでください。



本製品を使用するときは滑りにくい安全靴を履いて使用してください。
滑りにくい安全靴を履いて作業するとけがの危険性を減らすことができます。

各部名称



標準付属品の確認

- ・キー 1本



キーを本製品からはずしておく、本製品が作動しないようにすることができます。作業時はキーを本製品に取り付けた状態にしてください（キーを抜いた状態でも、バッテリー残容量の表示やライトの点灯をすることができます）。

別販売品のご紹介

- ・ 別販売品の詳細につきましてはカタログを参照していただくか、お買い上げの販売店、または当社営業所へお問い合わせください。
- ・ パイプフレームセット品
部品番号：CU00M
- ・ グレータイヤ前後輪セット（前輪 2 本入・後輪 4 本入）
部品番号：A-75063
- ・ ターフタイヤ前輪セット（2 本入）
部品番号：A-75057

バッテリーおよび充電器

品目	品名	部品番号
使用可能バッテリー（容量）	BL1815N（1.5 Ah）	A-60311
	BL1820B（2.0 Ah）	A-61715
	BL1830B（3.0 Ah）	A-60442
	BL1850B（5.0 Ah）	A-59900
	BL1860B（6.0 Ah）	A-60464
対応充電器	DC18RC（急速充電器）	JPADC18RC
	DC18RD（2口急速充電器）	JPADC18RD
	DC18RE（急速充電器）	JPADC18RE
	DC18RF（急速充電器）	JPADC18RF
	DC18SD（充電器）	JPADC18SD
	DC18SF（4口充電器）	JPADC18SF
	DC18SH（2口充電器）	JPADC18SH

ご使用前の準備

本製品の組み立て

- ・ パイプフレーム（別販売品）を使用する際は、以降の手順に沿って本製品を組み立ててください。

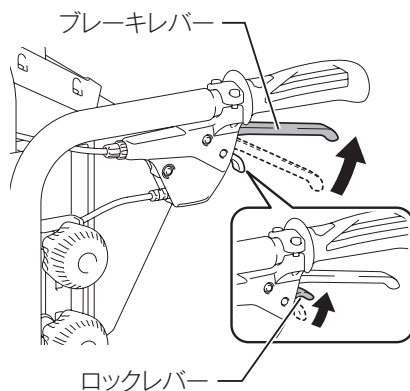
⚠ 警告

本製品を組み立てる前に、バッテリーおよびキーを差し込まないでください。

- ・ 本製品にバッテリーおよびキーを差し込んだ状態で組み付け作業を行うと、本製品が作動する恐れがあり、けがの原因になります。

ブレーキレバーのロック方法

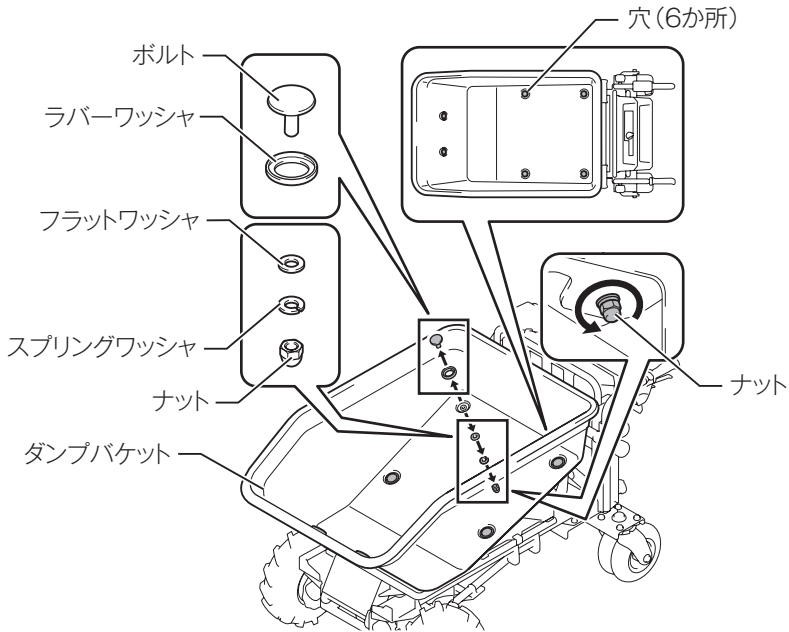
- ・ 取り付け、取りはずしの際は、必ずブレーキをロックしてください。
- ・ ブレーキレバーをロックするには、ブレーキレバーを引いたままロックレバーを引き、ロックレバーを引いたままブレーキレバーを放します。ロックを解除するには、ブレーキレバーを引きます。



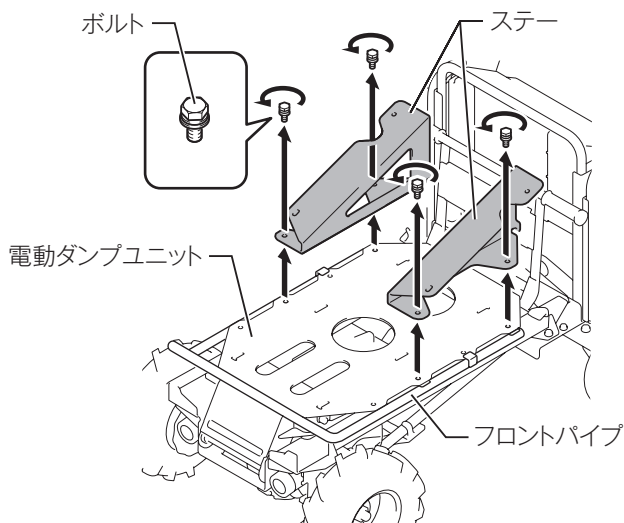
ダンプバケットの取り付け／取りはずし方法

■ 取りはずし方

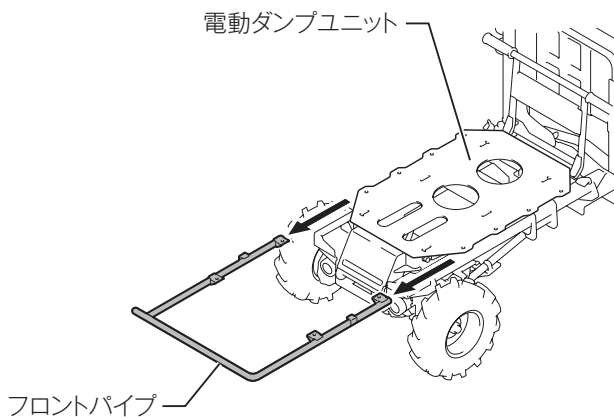
1. ダンプバケットの下側の穴（6 か所）からスパナ 13 でナット（6 個）をゆるめ、スプリングワッシャー（6 個）、フラットワッシャー（6 個）を取りはずします。
2. ダンプバケットの上側の穴（6 か所）からボルト（6 本）、ラバーワッシャー（6 個）を取りはずします。
3. ダンプバケットを取りはずします。



4. スパナ 13 を使用してボルト（4 本）をはずし、電動ダンブユニットからステーをはずします。



5. フロントパイプを電動ダンブユニットから引き抜きます。



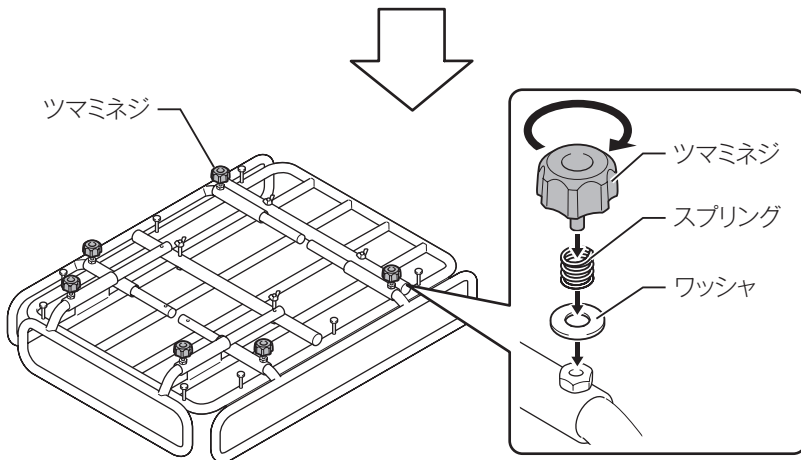
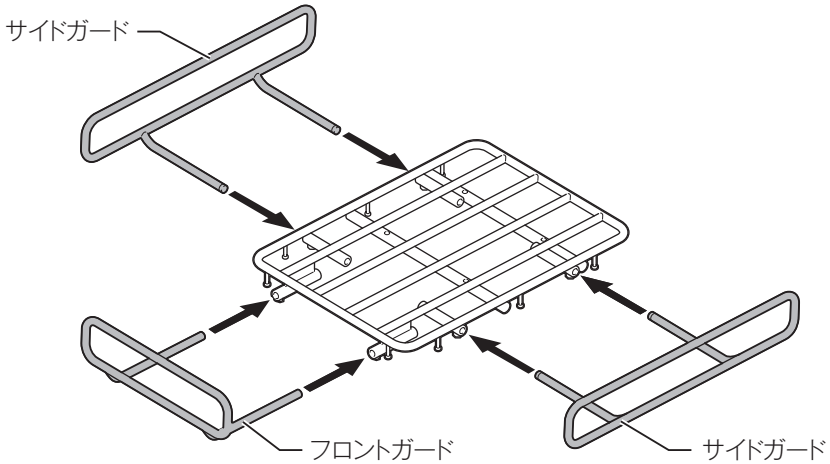
■ 取り付け方

- ・ 取りはずしの逆手順で取り付けます。

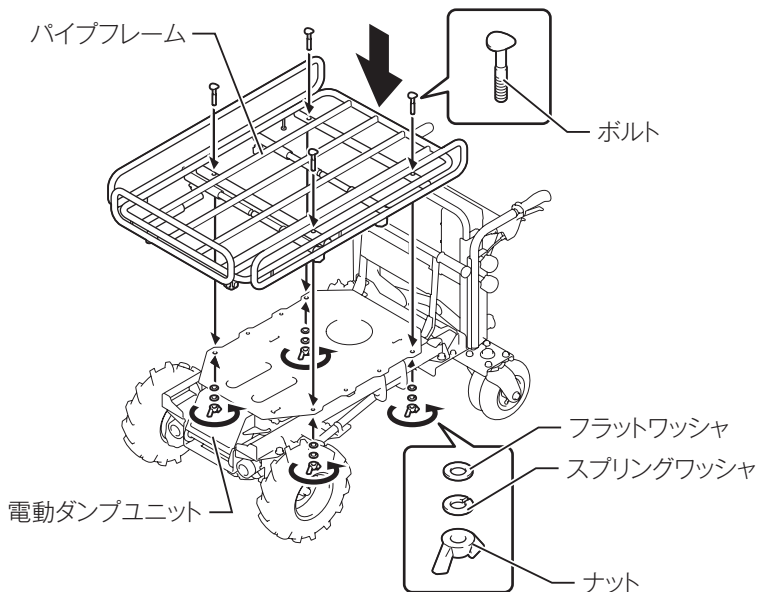
パイプフレーム(別販売品)の取り付け／取りはずし方法

■ 取り付け方

1. 箱からパイプフレームを取り出します。
2. サイドガード (2本) とフロントガードを図のように組み立て、裏返してツマミネジ (6個)、スプリング (6個)、ワッシャ (6枚) をしっかりと締め付けます。



3. パイプフレームを電動ダンプユニットに載せ、上からボルト（4本）を挿し込みます。
4. 挿し込んだボルト（4本）に下側からフラットワッシャ（4個）、スプリングワッシャ（4個）を取り付け、ナット（4個）を締め付けます。



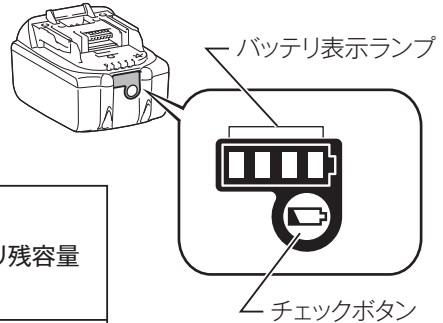
■ 取りはずし方

- ・ 取り付け方の逆手順で取りはずします。

バッテリーの充電

バッテリー残容量表示

モデル名の末尾に「B」の付くバッテリーは、残容量表示機能が付いています。
 ・ チェックボタンを押すとバッテリー表示ランプが残容量を数秒間表示します。



バッテリー表示ランプ	バッテリー残容量
■:点灯 ▨:点滅 □:消灯	
■ ■ ■ ■	75 % - 100 %
■ ■ ■ □	50 % - 75 %
■ ■ □ □	25 % - 50 %
■ □ □ □	0 % - 25 %
▨ □ □ □	充電してください。
■ ■ □ □ □ □ ■ ■ ↓ ↑	バッテリーの異常 です。

注

- ・ 表示される残容量は、ご利用状況や気温などによって実際の残容量と異なる場合があります。
- ・ バッテリー保護機能が働いた際は、左端のバッテリー表示ランプが点滅します。

バッテリー／充電器の取り扱い

バッテリーについて

- ・ お買い上げ時は、バッテリーは十分に充電されていないため、充電器で正しく充電してからご使用ください。
- ・ 使用しないときはバッテリーカバーをかぶせてください。バッテリーを水やほこりから保護するのに役立ちます。
- ・ 使用しないときは本製品または充電器からバッテリーを抜いて保管してください。

バッテリーを長持ちさせるには

- ・ 工具の力が弱くなってきたと感じたら使うのをやめ、充電してください。
- ・ 満充電したバッテリーを再度充電しないでください。
- ・ 充電は周囲温度 10℃～40℃の範囲で行ってください。
- ・ 長期間（6ヶ月以上）ご使用にならない場合、リチウムイオンバッテリーは充電してから保管することをおすすめします。

バッテリーの回収について

- ・ 使用済みバッテリーはリサイクルのため回収しております。お買い上げの販売店、または当社営業所へご持参ください。



Li-ion

リチウムイオンバッテリーは
リサイクルへ

使用前に知っておいていただきたいこと

本製品およびバッテリーの保護機能

⚠ 警告

バッテリーの容量がなくなってくると、「ピ、ピ、ピ・・・」とブザーでお知らせします。そのまま作業を続けた場合、「ピーーーー」とブザーが鳴り、本製品は自動停止します。

作業中に「ピ、ピ、ピ・・・」とブザーが鳴り始めたら、すみやかにブレーキレバーを引き、ロックボタンを押し込んでブレーキをロックしてください。その後、充電されたバッテリーに切り換えるか、バッテリーを充電してください。

- ・ バッテリーの容量がなくなると本製品が急停止し、けがの原因になる可能性があります。

高温のバッテリーを使用しないでください。「ピ、ピ、ピ・・・」とブザーでお知らせする前に、本製品は自動停止します。

- ・ 高温のバッテリーを使用すると本製品が急停止し、けがの原因になる恐れがあります。

- ・ 本製品、およびバッテリーの寿命を延ばすために、保護機能を備えています。作業時に、本製品またはバッテリーが次の状態になると自動停止します。自動停止する前に「ピ、ピ、ピ・・・」とブザーでお知らせします。また、ブザーでお知らせ中はバッテリー表示ランプ、スイッチパネル上のLEDが点滅します。お知らせせずに「ピー」とブザーと同時に自動停止する場合があります。

■ 過負荷保護機能

- ・ 作業時に過負荷を感知すると、本製品は自動停止し、主電源ランプが緑色に点滅します。本製品の電源を切り、再度電源を入れてください。または、積載量を減らしてから、再度電源を入れてください。

■ 発熱保護機能

- ・ 本製品が熱くなると、本製品は自動停止し、主電源ランプが赤色に点灯します。本製品が熱くなっている場合は、再始動前に本製品を十分に冷ましてください。

■ 過放電保護機能

- ・ バッテリーの容量が少なくなる、またはバッテリーが熱くなると、主電源ランプ、対象のバッテリー表示ランプが赤色に点滅し本製品は自動停止します。バッテリーを切り換えるか、充電されたバッテリーに交換するか、取りはずしてバッテリーを充電してください。バッテリーを切り換えても動作しない場合は、容量がなくなった、または熱くなったバッテリーを取りはずしてください。

上記以外の症状で停止した場合、63 ページの「故障かな?と思ったら」を参照して点検してください。

使い方

バッテリーとキーの取り付け／取りはずし方法

⚠ 警告

本製品にバッテリーを差し込む前に、スイッチが切れていること、ブレーキがロックされていることを必ず確認してください。

- ・ スwitchを入れたままバッテリーを差し込むと、事故の原因になります。

本製品にバッテリーを差し込む前に、スイッチレバーが正しく作動し、放すと「オフ」の位置に戻ることを常に確認してください。

バッテリーは確実に差し込んでください。ボタン上部の赤色部が見えている場合は完全にロックされていません。赤色部が見えなくなるまでしっかり差し込んでください。

- ・ 差し込みが不十分ですと、はずれて事故の原因になります。

高温のバッテリーを使用しないでください。

- ・ 高温のバッテリーを使用すると本製品が起動しない、または本製品が急停止してけがの原因になる恐れがあります。

本製品を使用しないときは、必ずキーを取りはずし、子供の手の届かない所に保管してください。

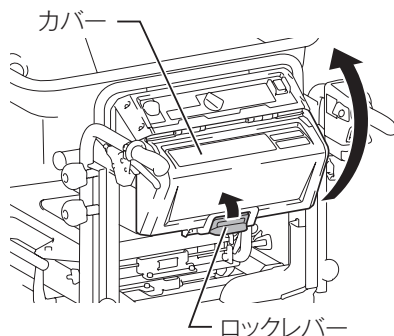
⚠ 注意

カバーを完全に閉じていない状態で使用しないでください。

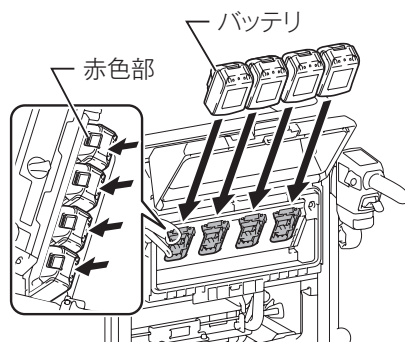
- ・ ほこりや水などが入り、本製品およびバッテリーが故障する恐れがあります。

取り付け方

1. ロックレバーを引き上げて、バッテリーボックスのカバーを開きます。

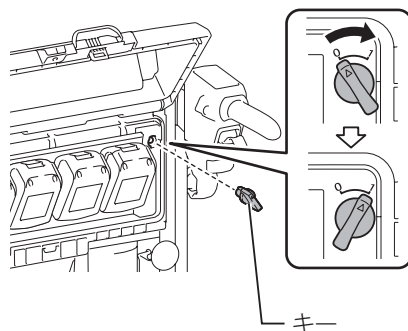


2. バッテリーを本製品の溝に合わせ、赤色部が見えなくなるまでしっかりと奥まで差し込みます。

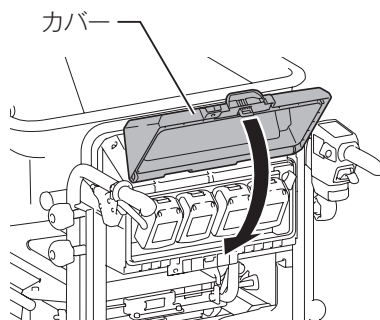


注

- 本製品の作動に必要なバッテリーは 2 個ですが、バッテリーボックス内に 4 個までのバッテリーを装着できます。
 - バッテリーを 2 個だけ使用する場合は、左右どちらか片側に 2 個並べて装着し、バッテリー切り換えスイッチを正しい選択位置に合わせてください (34 ページ参照)。
3. キーを図の位置の奥まで挿し込み、時計回りに 1 側に回します。
 - キーを回すには、キーを奥まで挿し込んでください。

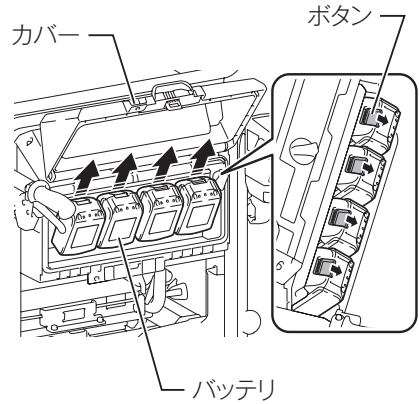


4. バッテリーボックスのカバーを閉じます。
- バッテリーボックスを完全に閉じて、カバーがロックされていることを確認してください。



取りはずし方

1. ロックレバーを引き上げて、バッテリーボックスのカバーを開きます。
2. バッテリーのボタンを矢印方向に押しながら、図のような向きで引き出します。



3. キーを反時計回りに0側に回し、キーをはずします。
4. バッテリーボックスのカバーを閉じて、カバーをロックします。

本製品の操作

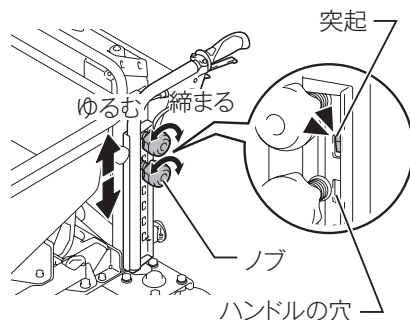
⚠ 注意

各調整をする場合は、必ずブレーキレバーをロックして、バッテリーボックスからバッテリーおよびキーを抜いてください。

- ・ 本製品が作動し、けがの原因になります。

ハンドルの高さ調整

- ・ ノブ（2個）をゆるめ、ハンドルの穴をリアフレームの突起に合わせて、高さを調整します。
- ・ 調整後は、ノブ（2個）をしっかり締めます。
- ・ 左右とも同様の方法で調整できます。
- ・ ハンドルの高さは7段階で調整できます。



注

- ・ ハンドル高さを調整するときは、左右のハンドルの高さを合わせてください。

バッテリーの切り換え方

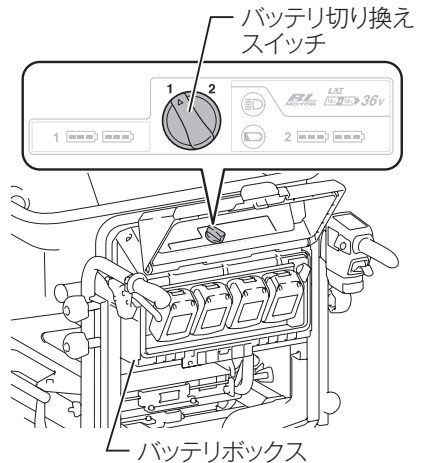
⚠ 注意

バッテリーを切り換える際には、必ず本製品を停止させてください。
操作の前に必ずキーを挿入してください。

- ・ バッテリーボックスにキーを挿し込まないと、本製品は作動しません。

残容量が残っていないバッテリー、または熱くなったバッテリーが取り付けられている場合、バッテリー切り換えスイッチでバッテリーを切り換えても、本製品は動作しません。この場合、残容量が残っていない状態のバッテリーを取りはずすか、充電済みのバッテリーに交換してください。

- ・ 本製品の作動に必要なバッテリーは2個ですが、バッテリーボックス内に4個までのバッテリーを装着できます。
- ・ バッテリーの切り換えは、バッテリーボックス上のバッテリー切り換えスイッチで行います。
- ・ 「1」に合わせると左側、「2」に合わせると右側のバッテリーが選択されます。



注

- ・ バッテリーボックス内のバッテリーが2個だけの場合、選ぶバッテリーを間違えると電源が入りません。
例：バッテリーボックスの右側にバッテリーを装着しているのに、バッテリー切り換えスイッチの「1」に合わせる。→ 電源が入らない。

バッテリー残容量表示

⚠ 注意

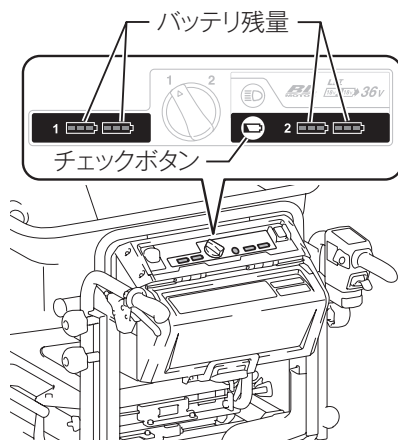
バッテリーの残容量を確認するときは、必ず本製品を停止して行ってください。


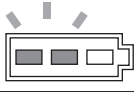

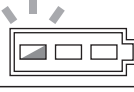
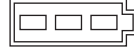
バッテリーの容量がなくなってくると、短いブザーでお知らせします。本製品を停止させて、ブレーキレバーをロックしてからバッテリーを切り換えるか、充電されたバッテリーに交換するか、またはバッテリーを充電してください。バッテリーの容量がなくなると、ブザーが長く鳴り本製品が急停止し、けがの原因になる可能性があります。

坂道など走行中にブザーが鳴った場合や、本製品が自動停止した場合は、本製品を安全な場所に移動させてください。移動させた後にブレーキをロックして、充電されたバッテリーに交換するか、またはバッテリーを充電してください。積載量が多い場合、坂道などでブザーが鳴ったときや、本製品が自動停止したときは、無理に本製品を移動させないでください。本製品のブレーキをロックした後に、安全に十分に注意して充電されたバッテリーに交換し、本製品を安全な場所に移動してください。また、本製品の使用を再開する前に、積載した荷物を減らしてください。

詳細は 61 ページの「動かせなくなった本製品を緊急で移動させる対処方法」を参照してください。

- ・ チェックボタンを押して、バッテリー残量を表示します。



バッテリー残容量表示			バッテリー残容量
■ 点灯	▲ 点滅	□ 消灯	
			50 % - 100 %
			20 % - 50 %
			0 % - 20 %
			充電切れ
			バッテリーなし

注

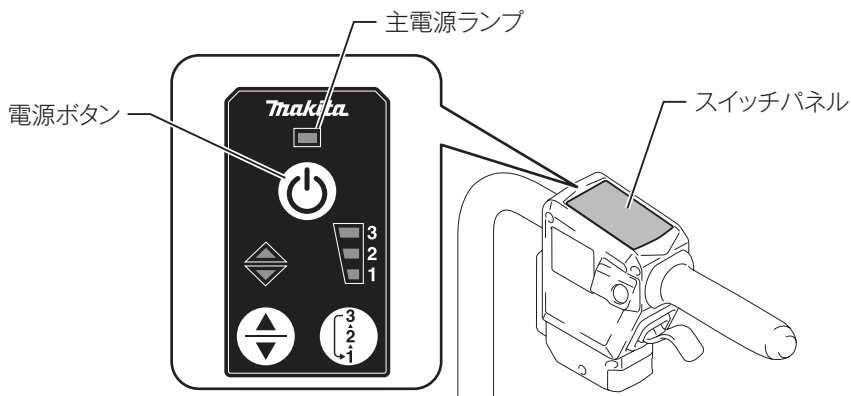
- ・ ブザーが鳴り始めてもスイッチレバーを引き続けると本製品は自動停止します。自動停止後はブザーが鳴り続け、サポートブレーキ機能が作動します。ブレーキレバーを引き、スイッチレバーを放すと、ブザーとサポートブレーキ機能が解除されます。
サポートブレーキを解除せずに本製品を無理に押さないでください。
- ・ キーを挿入しなくても、バッテリー残量を確認できます。
- ・ 残容量表示機能が付いたバッテリーを使用した場合、本製品側とバッテリー側の残容量表示が異なる場合があります。

電源の入れ方

⚠ 警告

本製品を使用しないときは、必ず電源を切って、ブレーキレバーをロックしてください。

- ・ 本製品が作動し、けがの原因になります。
- ・ ブレーキレバーをロックした状態（22 ページ参照）で電源ボタンを押すと、主電源ランプが緑色に点灯します。
- ・ 電源が入った状態で、ブレーキレバーをロックし電源ボタンを押すと電源が切れます。



注

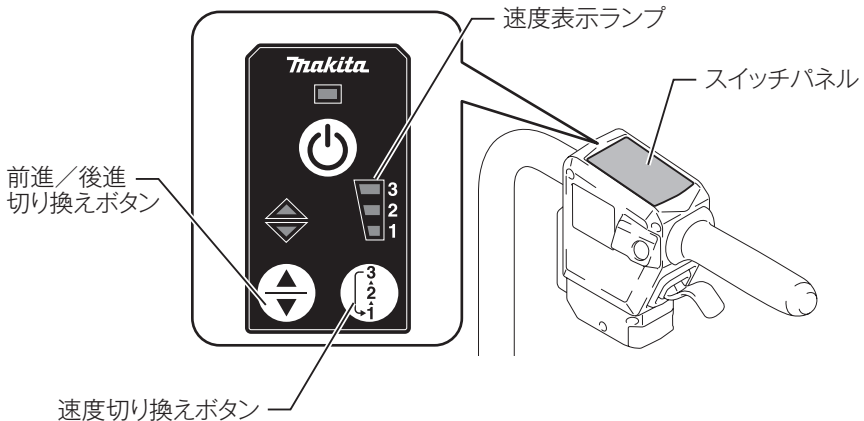
- ・ 電源を入れたとき、進行方向は前進、速度は低速の設定になっています。
- ・ 本製品は電源を入れてから初回の駆動時に電気検査を行います。問題を検知すると、主電源ランプが赤と緑の交互に点滅します。この場合は、60 ページの「トラブルシューティング」を参照してください。
- ・ 主電源ランプが赤く点灯したり、赤または緑に点滅したりする場合は、60 ページの「トラブルシューティング」を参照してください。
- ・ 速度表示の 1 灯と 2、3 灯が交互に点滅している場合は、コントローラに異常を検知したため走行速度が 0.8 km/h に制限され、昇降動作も下降側だけの動作に制限されています。この場合は、荷台を一番下まで下げてから本製品を安全なところに移動させて、ブレーキをロックしてください。63 ページの「故障かな？と思ったら」を参照して点検してください。
- ・ 意図しない起動を避けるため、電源を入れてからスイッチ類を操作しないまま一定時間経過すると、自動的に電源が切れます。
- ・ スイッチレバーを引いたまま電源ボタンを押さないでください。スイッチレバーを放してから電源ボタンを押してください。

前進／後進の切り換え方

- ・ 前進／後進切り換えボタンを押すごとに、前進／後進が切り換わります。
- ・ 後進時は、「ピッピッ、ピッピッ…」とブザーが鳴ります。

速度の切り換え方

- ・ 速度切り換えボタンを押すごとに、低速／中速／高速が切り換わります。



注

- ・ スイッチレバーを引いている間は、前進／後進の切り換えはできません。本製品が停止している状態でのみ、前進／後進の切り換えが可能です。
- ・ 後進時は、速度切り換えはできません。
- ・ 荷台が上がっている状態では、速度表示ランプの「1」が点滅し、速度切り換えはできません。

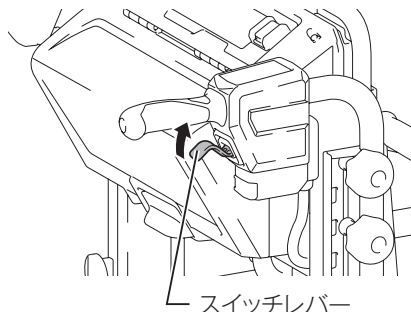
スイッチレバーの操作

⚠ 警告

バッテリーを差し込む前に、スイッチレバーが正しく作動し、放すと元の位置に戻ることを確認してください。

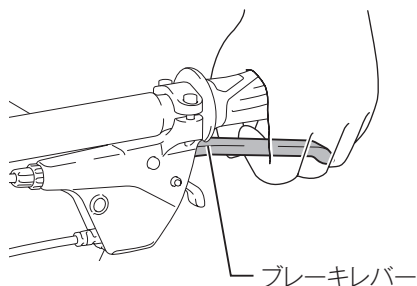
- ・ スイッチレバーが正しく作動しないと、事故の原因になります。

- ・ スイッチレバーを引くと、本製品が前進／後進します。
- ・ スイッチレバーの引き具合で、設定された速度の範囲内で速度調整をすることができます。



ブレーキレバーの操作

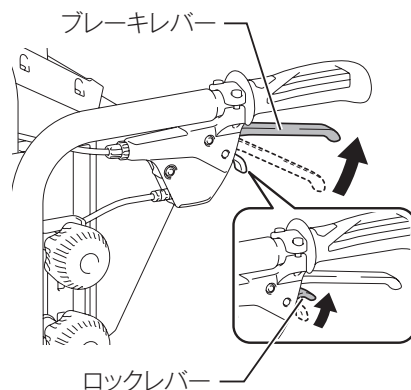
- ・ 本製品を止めるときは、スイッチレバーを放してブレーキレバーを引きます。



- ・ ブレーキレバーをロックするには、ブレーキレバーを引いたままロックレバーを引き、ロックレバーを引いたままブレーキレバーを放します。ロックを解除するには、ブレーキレバーを引きます。

注

- ・ ブレーキレバーを引いた状態では、スイッチレバーを引いても本製品は動作しません。



傾斜スイッチの操作

⚠ 警告

人を乗せて傾斜させないでください。

- ・ けがの原因になります。

傾斜の際には、身体の一部を挟まないように気を付けてください。

- ・ 事故やけがの原因になります。

強風時は傾斜しないでください。

- ・ 本製品が転倒し、けがの原因になります。

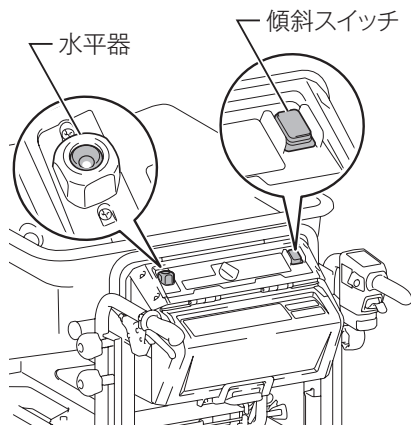
荷台の傾斜は、平坦で安定した場所で行ってください。

- ・ 不安定な場所での作業は、事故やけがの原因になります。

本製品の上部に障害物があるところではダンプを傾斜させないでください。

- ・ 本製品の故障の原因となります。

- ・ ブレーキレバーを握った状態(22 ページ参照)で傾斜スイッチを押し続けると、自動で荷台が傾斜します。
- ・ 傾斜時は、「ピッピッピッ、ピッピッピッ…」とブザーが鳴ります。
- ・ ダンプユニットが一番上まで上がったときや、一番下まで下がったときは、ブザー音が鳴り止んで荷台が自動的に停止します。



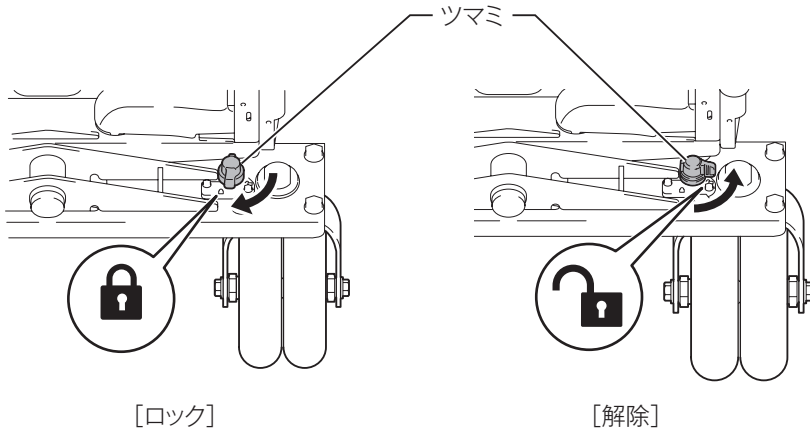
注

- ・ ブレーキレバーを握った状態でのみ、ダンプユニットの傾斜が可能です。
- ・ 先にブレーキレバーを握ってから傾斜スイッチを押さないと、ダンプユニットは傾斜しません。
- ・ ダンプユニットが一番下に近づくと、傾斜速度が低下します。完全に下がりきっていない状態でも本製品は速度を切り換えて走行できますが(38 ページ参照)、ダンプユニットが下がる速度が低下した状態でさらに昇降スイッチを押し続けると、完全にダンプユニットが下がります。
- ・ 傾斜するときは、水平器で平坦であることを確認してください。
- ・ 傾斜中、バッテリーの容量がなくなったときは、充電されたバッテリーに交換するか、またはバッテリーを充電してください。
- ・ 傾斜中はハンドルをしっかり握ったまま(ブレーキレバーを握ったまま)手を放さないでください。

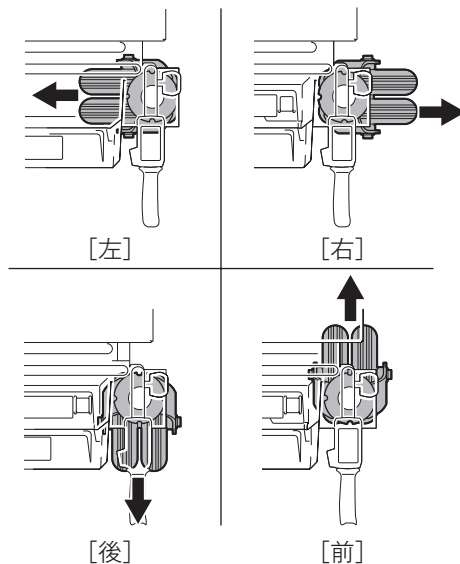
後輪ロックの操作

後輪ロックで左右の後輪の向きを固定することができます。

- ・ ツマミを後方に90°回すとロックされます。後輪を前後または左右に少し動かして、ロックされていることを確認します。
- ・ ロックされた状態で、ツマミを外側に90°回すとロックが解除されます。

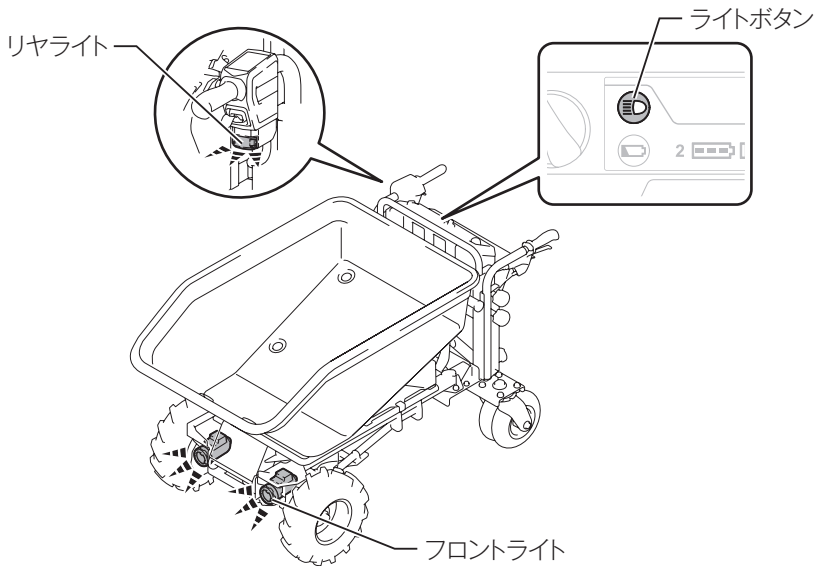


- ・ 後輪は前後左右の4方向に固定することができます。



ライトの操作

- ・ ライトボタンを押すと、フロントライトとリヤライトが点灯します。
- ・ ライトボタンを押すごとに、点灯／消灯に切り換わります。

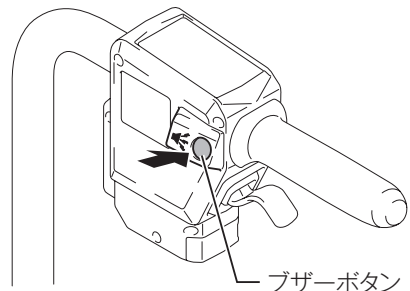


注

- ・ スイッチ類を操作せずに本製品が動いていない状態が一定時間続いた場合、ライトは消灯します。
- ・ 電源を切るとライトは消灯します。
- ・ キーが挿さってなくても、ライトは点灯できます。

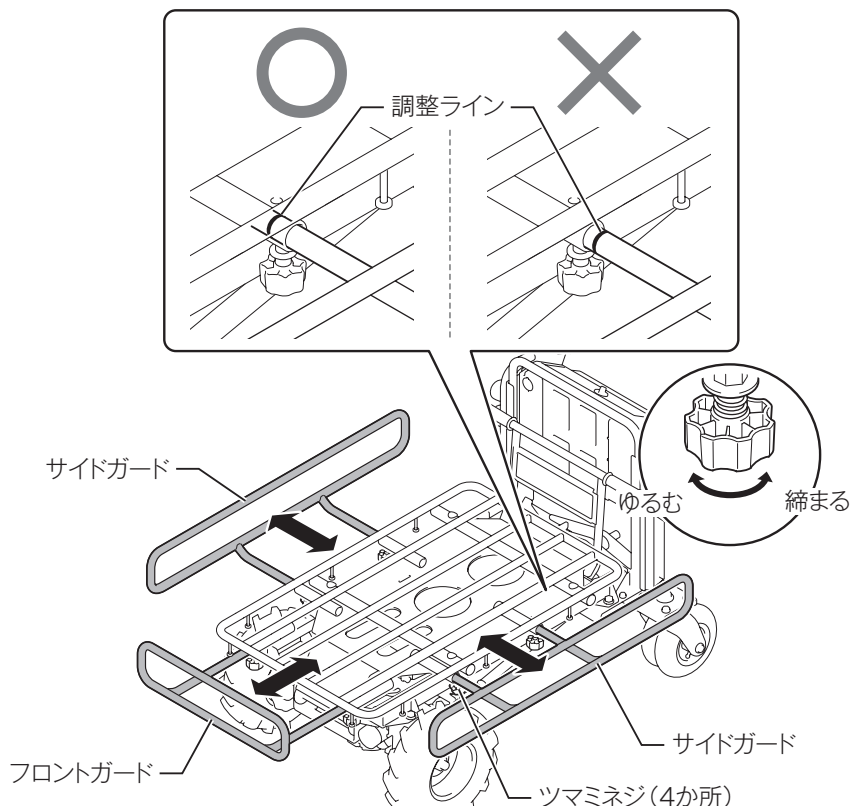
ブザーボタンの操作

- ・ ブザーボタンを押すと、ブザー音が鳴ります。
- ・ キーが挿さっていない状態でも、ブザーボタンを押すと、ブザー音が鳴ります。
- ・ 電源が入っていない状態では、ブザーボタンを押しても、ブザー音は鳴りません。



パイプフレーム（別販売品）の幅調整

- ・ ツマミネジ（4か所）をゆるめて、サイドガードまたはフロントガードをスライドさせます。
- ・ 調整後は、ツマミネジを締め付けて固定します。



注

- ・ 調整ラインを越えてガードを広げないでください。
- ・ ツマミネジを締め付けた後に、ガードがしっかりと固定されていることを確認してください。

積載方法

⚠ 警告

積載前は、電源が入っていないこと、ブレーキがロックされていることを確認してください。

- ・ 本製品が作動し、けがの原因になります。

積載前は、荷台がロックされていることを確認してください。

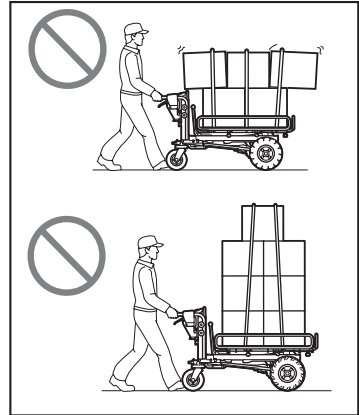
- ・ 荷台が安定せず荷崩れや落下など、けがの原因になります。

積載物はパイプフレーム、またはバケットの内側に納めてください。

- ・ 積載物がはみ出た状態で傾斜させると荷崩れや落下など、けがの原因になります。

積載物はバケットの高さを超えて積載しないでください。

- ・ バケットの高さを超えて積載すると、荷崩れの恐れがあります。
- ・ 高く積載された積載物が視界をさまたげるため危険です。
- ・ 高く積載された積載物により重心が高くなるため、転倒などの原因になります。



積載物は荷台に均等になるように積載してください。

- ・ 積載物が偏った状態で傾斜させると荷崩れや落下など、けがの原因になります。

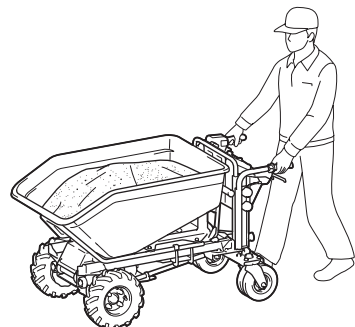
荷物を積載するときは、ダンブロックがロックされていることを確認し、荷台のハンドル側から順に積載してください。

- ・ フロントタイヤ側から荷物を積載すると、荷台が不安定となり勝手にダンプする原因となります。

荷物を降ろすときは、ダンブロックがロックされていることを確認し、フロントタイヤ側から順に降ろしてください。

- ・ ハンドル側から荷物を降ろすと、荷台が不安定となり勝手にダンプする原因となります。

1. 荷物を積載します。



運搬方法

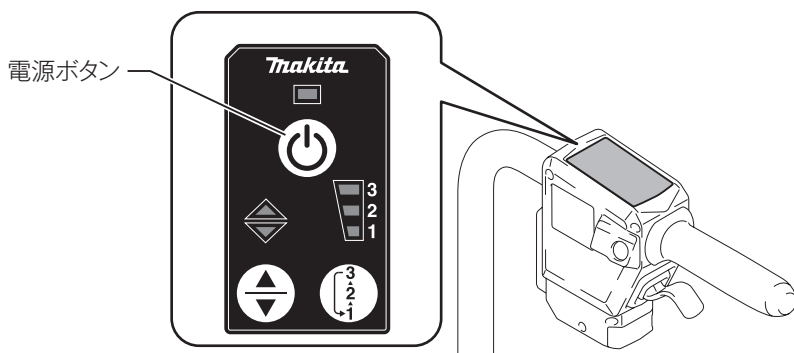
⚠ 注意

必ず作業前点検を行ってください (51 ページ参照)。

操作の前に必ずキーを挿入してください。

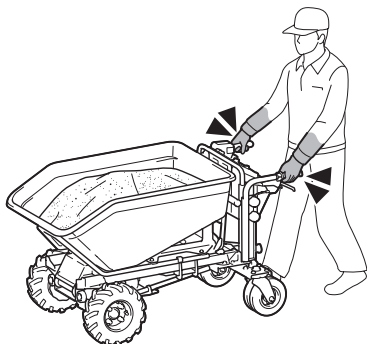
- ・ バッテリーボックスにキーを挿し込まないと、本製品は作動しません。キーが挿入されていない状態でスイッチレバーを操作すると、ブザーが鳴ります。スイッチレバーを放し、ブレーキレバーを引くとブザーは停止します。

1. ブレーキレバーがロックされていることを確認します (22 ページ参照)。
2. バッテリーを取り付け、キーを挿入して時計回りに回します (31 ページ参照)。
3. バッテリー切り換えスイッチで使用するバッテリーを選択します (34 ページ参照)。
4. 電源ボタンを押して電源を入れます。

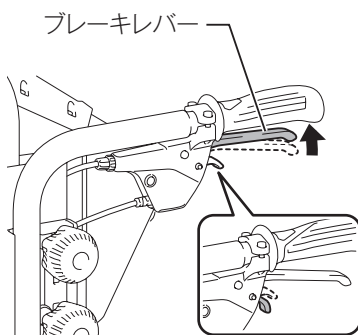


5. 前進／後進切り換えボタンで前進／後進を選択します (38 ページ参照)。
6. 速度切り換えボタンで速度を選択します (38 ページ参照)。

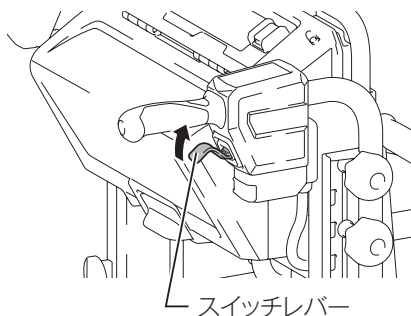
7. ハンドルを両手でしっかりと握ります。



8. ブレーキレバーを引いて、ブレーキレバーのロックを解除します。



9. スイッチレバーを引きます。



積載物の放出方法

⚠ 警告

ダンプユニットを手動で上げる際は、上げる前にブレーキレバーをロックしてください。

ダンプユニットを上げる際は、平坦で安定した場所で行ってください。

- ・ 不安定な場所での作業は、事故やけがの原因になります。

ダンプユニットを上げる際および戻す際は、身体の一部を挟まないように気を付けてください。

- ・ 事故やけがの原因になります。

ダンプユニットを上げる際は、周囲に人やものがないことを確認してから行ってください。

- ・ 事故やけがの原因になります。

ダンプバケットを持ち上げた後は、必ず元の位置に戻して、ダンプバケットをロックしてください。

- ・ 事故やけがの原因になります。

荷物をロープなどで固定している場合は、ダンプユニットを持ち上げる前に、荷物をほどいてください。

パイプフレーム装着時にダンプユニットを傾斜させる場合、フロントガードを取りはずしてください。

- ・ 本製品のダンプユニットを電動で持ち上げて傾斜させ、積載物を放出することができます。

積載物が少ないときは、電動で傾斜させなくてもロックレバーを解除し、ダンプバケットを手動で持ち上げることで、積載物を放出することができます。

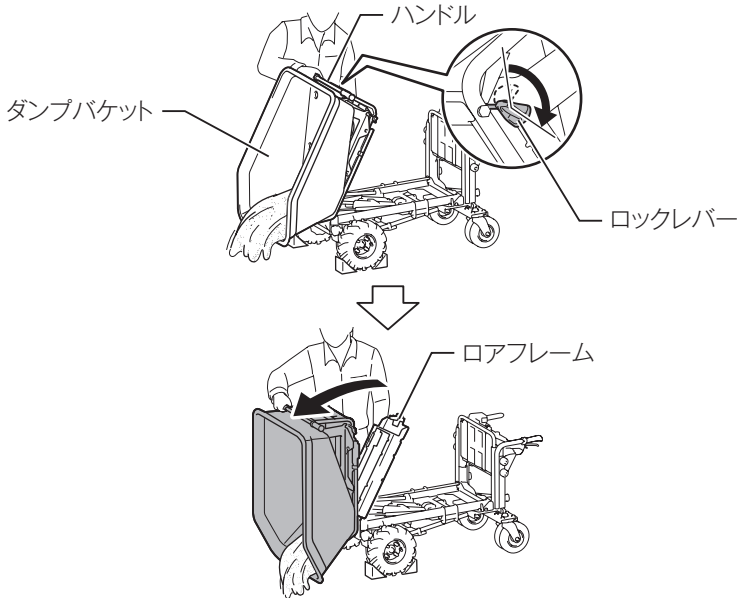
1. 電動でダンプを傾斜させる場合は、本製品を止めて、ブレーキレバーを握ったままハンドルをしっかり握ります。
2. 傾斜スイッチでダンプユニットを持ち上げ（40 ページ参照）、積載物を放出します。

注

- ・ ダンプ傾斜中、バッテリーの容量がなくなったときは、充電されたバッテリーに交換するか、バッテリーを充電してください。



- 電動で傾斜しただけで積載物が放出されない場合は、ブレーキレバーをロックし、本製品の側面から片手でダンプユニットのハンドルを持ち、ロックレバーを矢印の方向に回して解除します。
- ダンプバケットまたはパイプフレームを更に傾斜させて、積載物を放出します。



- ダンプユニットをロアフレームの位置まで引き下げて、ダンプユニットを確実にロックし、傾斜スイッチで下げます。

注

- 前輪に輪留めをすることで、より確実に本製品の固定ができます。
- 手でダンプユニットを動かす時は、しっかりとダンプユニットのハンドルを保持して、無理のない姿勢で作業してください。
- 最大積載量は 300 kg です。積荷が少ない程、本製品が操作しやすいため、荷物は最低限に均等に積み込んでください。過積載時は、荷台は上がりません。
- 本製品はダンプユニットをロアフレームの位置まで引き下げると、ダンプユニットのロックレバーが自動的にロックされます。
- 傾斜するときは、水平器で平坦であることを確認してください。

使用後の取り扱い

⚠ 警告

お手入れや水洗いの際は、必ずバッテリーとキーを抜き、バッテリーボックスのカバーを完全に閉じてください。

- ・ 本製品が作動し、けがの原因となったり、本製品の故障の原因となります。

本製品のお手入れ

- ・ 泥汚れなどが付着したときは、水洗いで汚れを落として乾いたタオルで拭いてください。

注

- ・ 高圧洗浄機による水洗いは絶対にしないでください。本製品内部に水が入り、故障の原因になります。
- ・ ガソリン、ベンジン、シンナー、アルコールなどは変色、変形、ひび割れの原因となりますので使用しないでください。

保管方法

⚠ 警告

保管時は、必ず本製品を平らな地面に停止させて、ブレーキレバーをロックしてください。

- ・ 事故やけがの原因になります。

保管時は、必ずバッテリーとキーを抜き、バッテリーボックスのカバーを閉じてください。

- ・ 本製品が作動し、けがの原因になります。

保管時は、必ず荷台を一番下まで下げてください。

- ・ 事故やけがの原因になります。

■ 日常の保管

日常の保管および短期間の保管をする前に、下記の作業を行ってください。

- ・ きれいに清掃してください。
- ・ 安定した水平な場所に保管してください。
- ・ 保管はできる限り屋内にしてください（屋根があり、雨の当たらない場所）。
- ・ 荷台からすべての荷物を降ろして保管してください。

■ 長期の保管

長い間（約 30 日以上）使用しない場合は、保管する前に下記の作業を行ってください。

- ・ きれいに清掃してください。
- ・ 不具合箇所は整備してください。
- ・ 各部のボルト、ナットのゆるみを点検し、ゆるんでいれば締めてください。
- ・ 保管場所は、周囲に燃えやすいものがなく、雨がかからず湿度の少ない場所を選定しシートをかけるようにしてください。
- ・ 取りはずしたバッテリーにはバッテリーカバーをかぶせてください。

■ 長期保管後の使用

長期保管後の再使用時は、特に次の内容に注意してください。

- ・ 作業前点検を確実に行ってください（51 ページ参照）。
- ・ 必ずバッテリーを充電してから使用してください。

⚠ 警告

点検・整備の際には、必ず本製品を平らな地面に停止させて、ブレーキレバーをロックしてください。

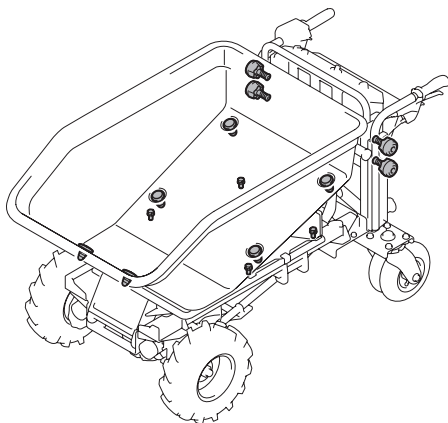
- ・ 事故やけがの原因になります。

点検・整備の際には、必ずバッテリーとキーを抜いてください。

- ・ 本製品が作動し、けがの原因になります。

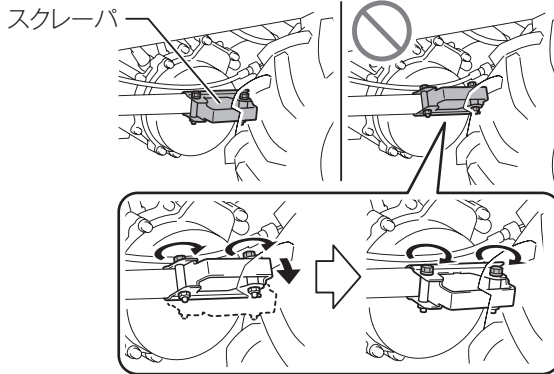
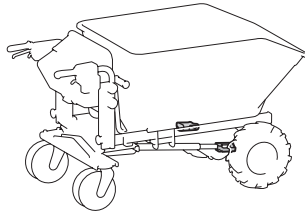
作業前点検

- ・ ご使用前に、次の項目をチェックしてください。
1. すべてのボルト、ナット、ツマミネジがしっかりと締まっていることを確認してください。



2. ダンプユニットのハンドルを完全に下げたときに、ダンプユニットがロックされていることを確認してください。
3. ブレーキが正常に作動することを確認してください。ブレーキの利きが悪い場合は、ブレーキを清掃してください。それでも解消しない場合は、お買い上げの販売店、または当社営業所まで修理をお申し付けください。
4. 前輪と後輪が損傷していないか確認してください。前輪と後輪のタイヤの空気が十分であることを確認してください。
5. フロントライト、リヤライト、リフレクタが汚れていないか確認してください。汚れている場合は清掃してください。

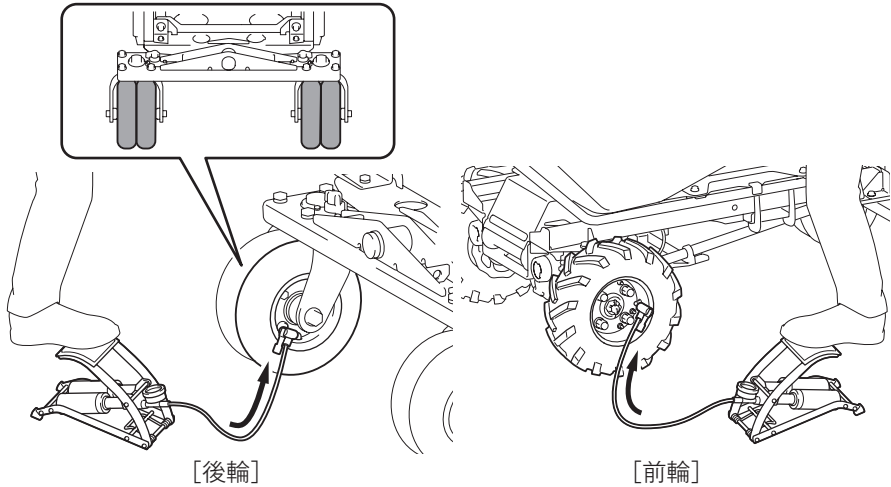
6. スクレーパが正しい位置にあることを確認してください。スクレーパが上向きになっている場合は、ボルトをゆるめてスクレーパの位置を調整して、ボルトを締めてください。ボルトを締める際に、スクレーパを本製品の前方に押し付けしないでください。



調整

タイヤの空気圧調整

- ・ 使用前に前輪（2本）と後輪（4本）のタイヤの空気が十分であるか確認して、空気が抜けているようであれば、空気を注入してください。



1. タイヤの空気注入口に、空気入れのノズルを挿し込みます。
2. 空気が漏れないように注意して、空気を入れます。

空気圧

- ・ 前輪：280 kPa（40 PSI）
- ・ 後輪：525 kPa（75 PSI）

注

- ・ 市販の空気入れで空気を注入できます。
- ・ 空気の注入口（バルブ）：米式タイプ
※ オートバイや自動車などで使われているタイプです。

タイヤ（別販売品）の交換

⚠ 警告

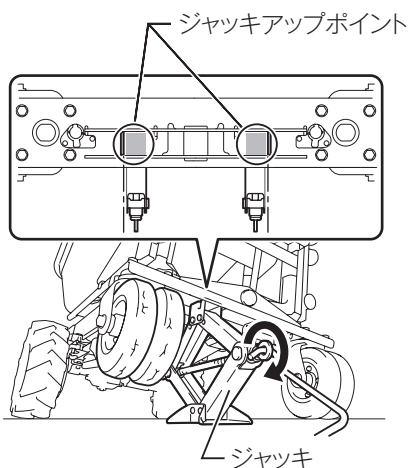
タイヤ交換を行う前に、必ずバッテリーとキーを抜いて、ブレーキレバーをロックしてください。

- ・ 本製品が作動し、けがの原因になります。

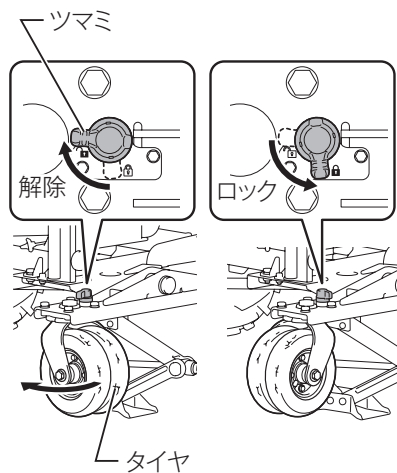
タイヤ交換を行う前に、本製品から荷物をすべて降ろしてください。
タイヤを交換する際は、必ず手袋を着用してください。

後輪の取りはずし方

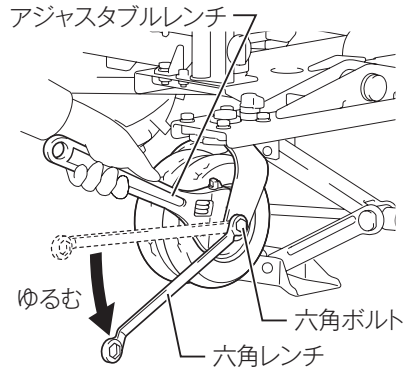
1. ジャッキアップポイントにジャッキを当て、本製品を持ち上げます。



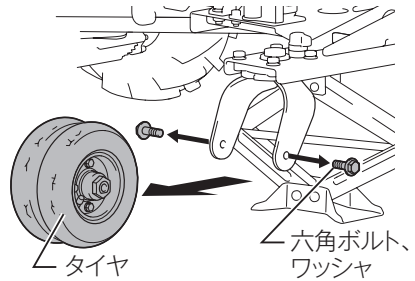
2. ツマミを外側に回してロックを解除し、タイヤを外側に向けます。ツマミを後方に回し、タイヤをロックします。



3. アジャスタブルレンチなどで六角スリーブ (直径約 32 mm) を固定して、六角レンチを反時計回りに回して六角ボルトをゆるめます。反対側の六角ボルトも同じ手順でゆるめます。



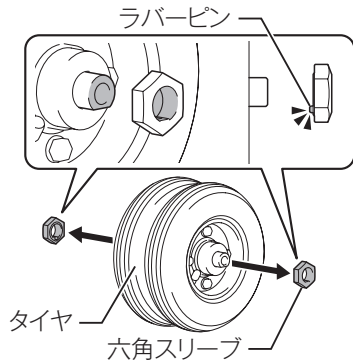
4. 六角ボルト (2 個)、ワッシャ (2 個) をはずし、タイヤをはずします。



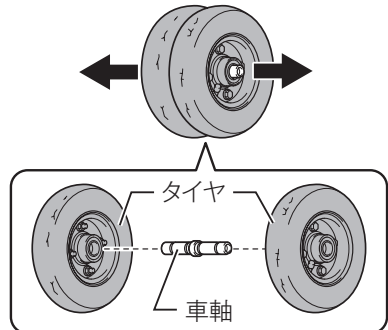
5. タイヤの左右に付いている六角スリーブ (2 個) をはずします。

注

- 六角スリーブにラバーピンが装着されています。ラバーピンを紛失しないように注意してください。

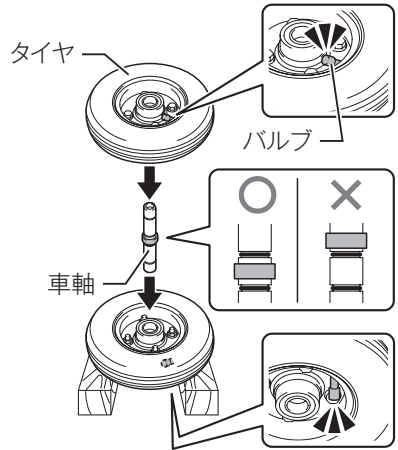


6. 車軸からタイヤ(2 個) をはずします。

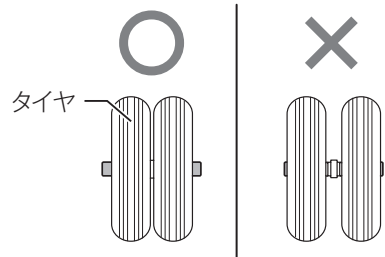


後輪の取り付け方

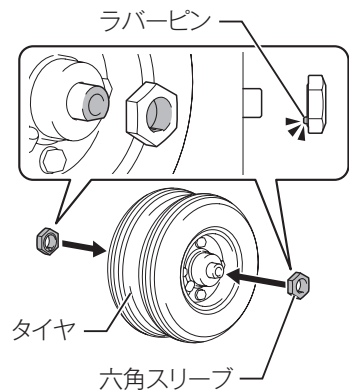
1. タイヤのバルブが外側を向くようにして、タイヤ（2個）を車軸に取り付けます。



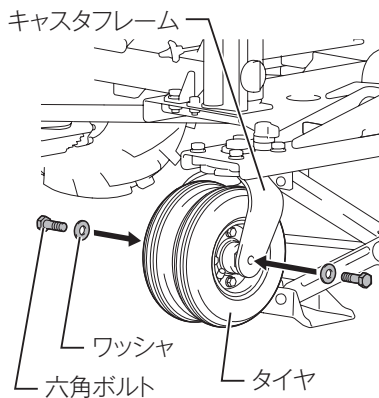
2. 車軸にタイヤ（2個）が隙間なく取り付けられていることを確認します。



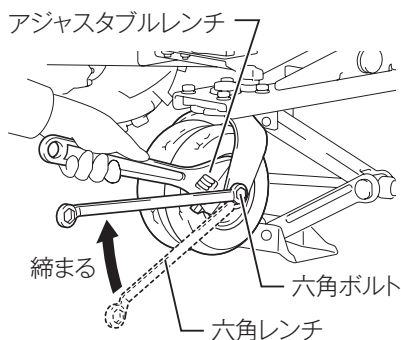
3. タイヤの左右に六角スリーブ（2個）を取り付けます。ラバーピンをタイヤに向けて六角スリーブを取り付けます。



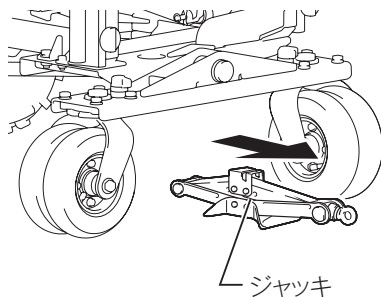
4. 六角ボルトにワッシャを取り付けて、キャストフレームの外側から六角ボルト（2本）を挿し込みます。



5. アジャスタブルレンチなどで六角スリーブ（直径約 32 mm）を固定して、六角レンチを時計回りに回して六角ボルトを締めます。反対側の六角ボルトも同じ手順で締めます。



6. 本製品からジャッキをはずします。



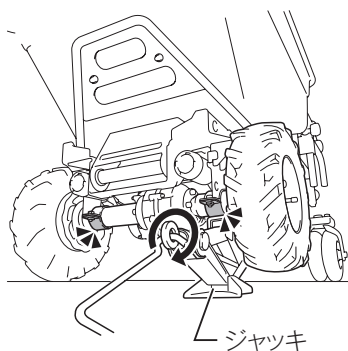
7. 後輪のロックを解除します。

前輪の取りはずし方

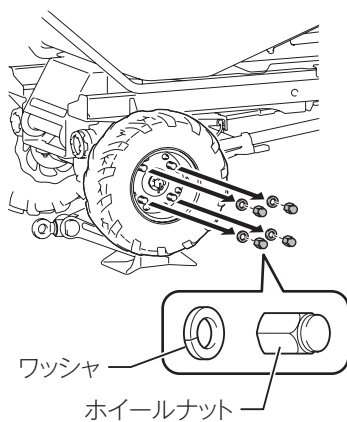
1. 六角レンチで矢印の順番にホイールナット（4個）をゆるめます。



2. 本製品をジャッキで持ち上げます。



3. ホイールナット（4個）、ワッシャ（4個）を取りはずし、タイヤを取りはずします。

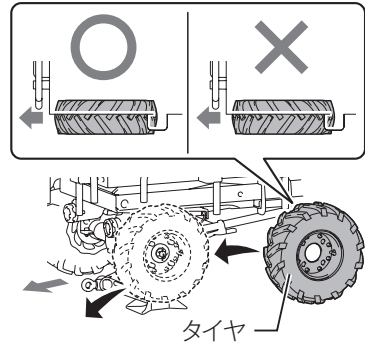


前輪の取り付け方

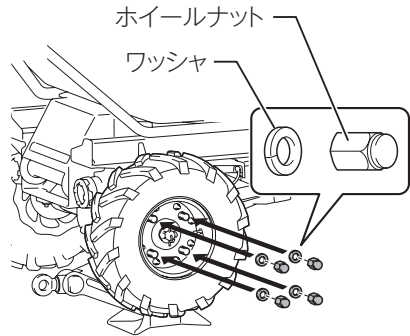
1. タイヤの向きに注意し、タイヤを取り付けます。

注

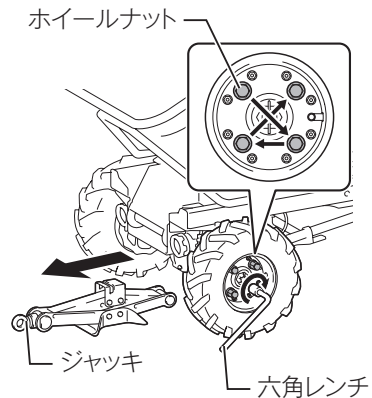
- ターフタイヤおよびグレータイヤを取り付ける場合は、バルブが外側に向くようにして取り付けてください。



2. ワッシャ (4 個)、ホイールナット (4 個) を取り付けて仮締めします。



3. 本製品からジャッキを取りはずし、矢印の順番に六角レンチでホイールナット(4 個)をしっかりと締めます。



トラブルシューティング

症状	電源ランプの状態	原因	対処
本製品の電源が入らない。	消灯	バッテリーが取り付けられていない。	充電されたバッテリーを2個本製品に取り付けてください。
		バッテリーの残容量がない。	充電されたバッテリーに交換するか、バッテリーを充電してください。
		選択しているバッテリーが正しくない。	バッテリー選択スイッチで正しいバッテリーを選択してください。
本製品が動作しない。	赤色の点滅	バッテリーの残容量がなくなって、本製品が停止した。	充電されたバッテリーに交換するか、バッテリーを充電してください。
		残容量がないバッテリーがひとつ以上取り付けられている。	残容量がないバッテリーを取りはずす、または充電されたバッテリーに交換してください。この場合、該当するバッテリーのバッテリー残容量ランプの左端が1灯点滅します。
	緑色の点滅	キーが装着されていない。	本製品にキーを挿し込んで、時計回りに回してください。
		本製品の過負荷保護機能により停止した。	本製品の積荷を減らしてください。
		本製品の故障により停止した。	修理を依頼してください。
	赤色の点灯	本製品の発熱保護機能により停止した。	本製品を冷ましてください。
	赤色と緑色の交互点滅	キーが装着されていない。	本製品にキーを挿し込んで、時計回りに回してください。
		本製品の故障により停止した。	1. 本製品の電源を切り、再度電源を入れてください。 2. 問題が解消しない場合は、修理を依頼してください。
	緑色の点灯	ニュートラルレバーが外側に引き出されている。	ブレーキレバーをロックして、ニュートラルレバーを元の位置に戻してください。
	少し使用すると本製品が止まってしまう。	赤色の点滅	バッテリーの残容量が少ない。

動かせなくなった本製品を緊急で移動させる対処方法

⚠ 警告

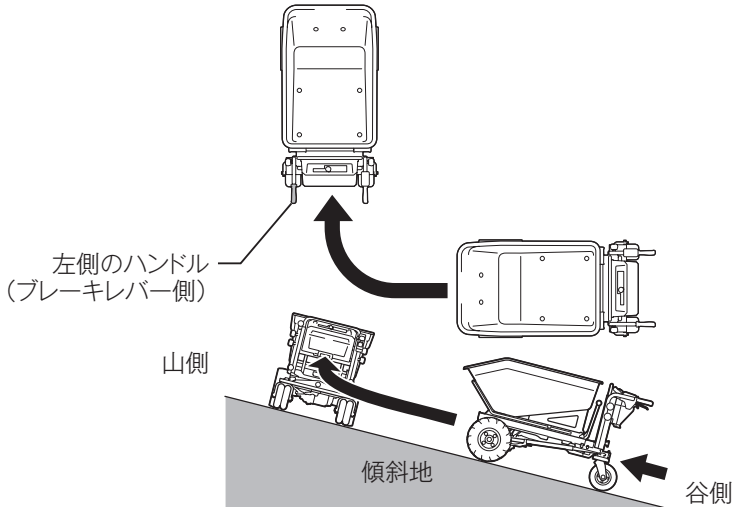
やむを得ない場合を除いて、ニュートラルレバーで本製品のサポートブレーキを無効にしないでください。

- ・ サポートブレーキが無効になっていると、意図せずに本製品が動いて事故やけがの原因になります。

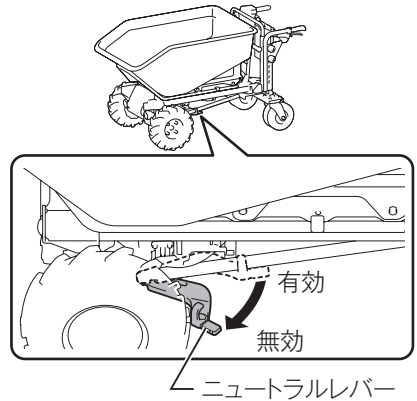
ニュートラルレバーを外側に動かした後は、必ずニュートラルレバーを元の位置に戻してください。

バッテリー切れや故障により本製品が動かせなくなったときは、ニュートラルレバーを操作して、サポートブレーキのロックを解除することで、本製品を安全な場所に移動させることができます。

1. ブレーキレバーをロックします。
2. 本製品から積荷をすべて降ろします。
3. 傾斜地の場合は、ブレーキレバーのロックを解除して、本製品の左側（ブレーキレバー側）が傾斜の山側になり、本製品が傾斜に対して直角になるように本製品の向きを変えて、ブレーキレバーをロックします。
※ 荷物を載せたままだと意図せず製品が動く場合があります。



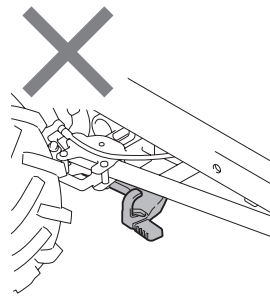
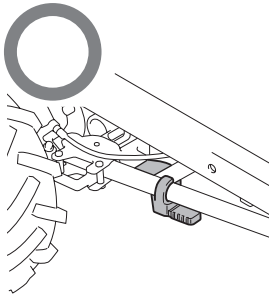
4. 本製品が動かないことを確認して、ニュートラルレバーを外側に動かします。



5. ブレーキレバーのロックを解除して、本製品を手押しで安全な場所まで移動させます。このとき本製品のサポートブレーキは作動しないので、速度が上がらないようにブレーキで調整しながら注意して移動させてください。
6. 平地の安全な場所に移動したら、ブレーキをロックします。
7. ニュートラルレバーを元の位置に戻します。このときニュートラルレバーが奥まで戻っていることを確認してください。

注

- ニュートラルレバーを戻す前に、ブレーキレバーをロックしてください。ニュートラルレバーを戻す際は、図のようにニュートラルレバーが完全に戻った状態になっていることを確認してください。



故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に、下記項目を点検してください。

症状

- 本製品が停止する
- 始動しない

原因

保護機能※が働き、本製品またはバッテリーが機能停止している可能性があります。

解消方法

本製品の電源を切って、再度入れてください。

↓ 解消しない

バッテリーを充電するか、充電済みのバッテリーと交換してください。

↓ 解消しない

本製品を十分に冷ましてください。

↓ 解消しない

お買い上げの販売店、または当社営業所まで修理をお申し付けください。

※保護機能については 29 ページ参照。

ご修理の際は

- ・ 修理はご自分でなさらないで、必ずお買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。
- ・ 修理をお申し付けの際は、製品、バッテリー、充電器を一緒にお持ちください。

株式会社 マキタ

愛知県安城市住吉町 3-11-8 〒446-8502

TEL.0566-98-1711 (代表)

881H26A7

IWT